

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」  
「(仮称) 2040 になりたい未来」(基本構想) 素案  
パブリックコメント実施結果

2020 年 8 月

町田市政策経営部企画政策課

## 「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」(基本構想素案)に関する パブリックコメント実施概要

2020年6月に公表した(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040(基本構想素案)について、市民の皆さまのご意見を募集しました。

### 1 意見の募集期間

募集期間 2020年6月15日(月)から2020年7月15日(水)まで

### 2 意見募集の方法

#### ◆ 以下の施設での資料閲覧・配布

市政情報課・広聴課(市庁舎1階)、企画政策課(市庁舎4階)、各市民センター、木曾山崎コミュニティセンター、各駅前連絡所、各市立図書館、町田市民文学館、男女平等推進センター、生涯学習センター

#### ◆ 町田市ホームページに資料を掲載

#### ◆ 「広報まちだ」(2020年6月15日号)にパブリックコメント実施概要を掲載

#### ◆ 「広報まちだ」(2020年7月1日号)の特集ページに素案概要を掲載

#### ◆ 「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040」特設サイトに資料を掲載

### 3 寄せられたご意見の件数・内訳

電子メール、ファックス、郵送等を通じて、40 名の方から、158 件のご意見をいただきました。ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。（おひとりから複数の趣旨のご意見をいただいた場合は、趣旨ごとに分割して集計しています。）

#### 【計画別ご意見件数】

ご意見の対象	件数
策定の趣旨、構成、過程に関するご意見	26 件
「(仮称)2040年になりたい未来」に関するご意見	26 件
2040年の町田市のイメージ(キャッチコピー)に関するご意見	2 件
なりたいまちの姿とまちづくりの方向性に関するご意見	16 件
行政経営の姿と方向性に関するご意見	8 件
将来人口に関するご意見	0 件
その他、基本構想以外に対するご意見	106 件
まちづくりに関するご意見	27 件
子育て・教育に関するご意見	17 件
交通に関するご意見	16 件
公共施設の整備等に関するご意見	8 件
環境に関するご意見	6 件
高齢者福祉に関するご意見	5 件
防災・防疫に関するご意見	5 件
農業支援に関するご意見	4 件
働く環境の整備等に関するご意見	4 件
共生社会に関するご意見	3 件
定住促進に関するご意見	3 件
文化芸術に関するご意見	1 件
地域コミュニティに関するご意見	1 件
自治体間連携に関するご意見	1 件
その他	5 件
合計	158 件

ご意見の概要とそれに対する市の考え方は、次ページ以降をご覧ください。なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は項目ごとに整理し、要約して掲載しています。

## <ご意見の概要と市の考え>

### 1. 策定の趣旨、構成、過程に関するご意見 (26 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	冊子ではまちづくり基本構想の方向性として①成長がカタチに②ココチよさが叶う③誰もがホット④なりたいが叶う、の4つの柱を掲げ3項以降に各々について説明がなされているが、全てが「思い」だけを語った内容に終始し、その「思い」の達成の為の具体策や手法の記載が全く無い。これでは夢を述べ合うだけで実現性は乏しいと思う。	(仮称) 2040 なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。
2	全体的に抽象的できれいごとを言っていると感じた。この変化の激しい世の中であって20年先の目標を考えるのは意味がないと思う。コロナが何時収束するのか、その時人々の生活や意識がどう変化しているのか、2, 3年先の事さえわからないのに。	(仮称) 2040 なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。 また、新型コロナウイルスへの対応や人の意識の変化などについても基本計画や実行計画に反映させてまいります。
3	町田だけでなく東京圏や首都圏でのエリアで注目される忠生地区の「人の手を入れた丘陵地の緑・里山など自然の潜在資源をいかしたまちづくり」を新基本構想・基本計画に位置付けるとともに、構想案のまちづくりの方向性やなりたいまちの姿の文言にさらにいかしてほしい。特にいかしていただきたい文言は、「相模原市との(まちづくり)連携協力」である。	自然の潜在資源をいかしたまちづくりは、なりたいまちの姿2に、また、連携協力については、まちづくりの方向性3にそれぞれ含まれると考えております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。
4	「基本構想」として「なりたいまちの姿」「成長がカタチになる」「ココチよさがかなう」「だれもがホットとできる」	(仮称) 2040 なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりた

	<p>「みんなの“なりたいがかなう」等と提示され、「ちょっといい環境・ちょうどいい暮らし」「多様な主体と共に」等のフレーズが並ぶが、何を意味しているのか。具体性が乏しく思える。</p>	<p>いまちの姿など、理念的なことを記載しております。特に、なりたいいまちの姿や行政経営の姿については、高校生を含む若い世代などの意見から、親しみやすいフレーズを用いています。また、より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。</p>
5	<p>「社会経済状況の変化」として、「多摩都市モノレール」,「小田急多摩線」の延伸、「リニア中央新幹線」の建設計画を付け加えているが、何か唐突な印象がある。</p> <p>これら鉄道計画については、むしろ地下水脈の寸断や森林減少、工事車両交通など、環境や生活への悪影響が懸念される。なぜここに利便性のみ強調する形で掲載されているのか。</p>	<p>国や東京都の計画による交通環境の変化は、町田市にも影響があるため記載しています。また、基本的に国の交通政策審議会の答申等で述べられていることを記載するとともに、都市構造の変化の部分に着目した記載としています。</p>
6	<p>「まちだ未来づくりビジョン 2040」策定の趣旨および位置付けの認識において、違和感がある。</p> <p>「なりたいいまちの姿、まちづくりの方向性」および「行政の姿、行政の方向性」は極めて抽象的で具体性に欠けるイメージの表記となっており、2004年、2011年に策定した町田市基本構想および町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」を単にリセットしたとは思えない。</p> <p>社会構造が大きく変化しているからと言って、これまで基本構想、基本計画として取り組んできたことを容易くりセットして、また基本構想(標語づくり)から始めることにどれだけの意義があるのか。それより重要なことは、既に実行している「まちだ未来づくりプラン」を評価し総括することによって課題を抽出し、それに対応する具体的実行力を継続させることだと思う。キ</p>	<p>(仮称) 2040 なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。</p> <p>また、現行の基本構想・基本計画に基づき取り組んできたことを単にリセットするのではなく、課題等を踏まえ、変わるべきところ、継続すべきところなどを検討して次に繋げてまいります。</p>

	<p>ヤッチコピーや「2040 なりたい未来 (基本構想)」の議論にかかる時間と労力を思うと、間断のない市民の日常に対する行政サービスにおいて、具体的な施策を推進しないテーマだけのリセットは気になる。</p>	
7	<p>コロナ禍の渦中にも拘らずパンデミック等のリスクに対する備えについての記述が見当たらない。基本方針部分ではなく基本計画部分の範疇だという認識をされているものと考え。基本計画部分はまず基本構想部分が確定した後の話となるということは、COVID-19 については現行の「まちだ未来づくりプラン」の中で課題認識し、計画を立案し、対策を実行していかなければならないということか。</p>	<p>(仮称) 2040 なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。</p> <p>また、「まちだ未来づくりプラン」の期間内においては、その計画の範疇として対応してまいります。</p>
8	<p>コロナ禍によって東京一局集中の見直し議論が再燃されることが予想される中で、町田市を目指すべき方向性を明確に定めて議論すべきである。</p> <p>IT によるリモート業務が成立することから東京一局集中の有用性が薄れる中、それでも東京の存在感は高く、東京から 1 時間圏内の町田市の価値は高い。東京から 1 時間圏内のエリアは町田市に限られる訳ではないので、先行してそのモデルを確立することが望まれる。</p>	<p>いただいたご意見については、なりたいまちの姿 2 やまちづくりの方向性 2 に含まれると考えております。</p>
9	<p>これからの市 20 年の基本方向を市民・個人がわずか 1 ヶ月で検討するというのは、無理である。市民グループとして「集团的検討」などもなおさら無理であり、少なくとも 1 年は必要である。</p> <p>しかもコロナ禍であり、行政としても第 2 波ともいえる感染者の増加に対して対策に集中しなければならない時であり、この後 20 年の町田市政の基本方</p>	<p>基本構想・基本計画を審議する町田市長期計画審議会の委員には市民団体等の代表が含まれ、2019 年 8 月から審議に入っております。また、基本構想の策定にあたっては、地区別意見交換会や無作為抽出型市民ワークショップ、高校生ワークショップなどを経て案を作成しております。</p> <p>今後、審議会や意見交換会等の開</p>

	向を論議する時期にしてふさわしいとは思えない。落ち着いたところでもう一度企画しなおしてほしい。	催時には新型コロナウイルスの対策を取りながら引き続き策定を進めてまいります。
10	行政が取り組むべきコロナ禍の医療関係の状況に関して記載がほとんどない。これからの医療・介護・社会保障関係など逼迫した状況をこの将来「20年」にどう位置付けているのか。真剣に行政当局が考えているのか疑問である。全体的に、事実に沿った正確な多岐多様で詳細資料の公開・開示を求めます。	(仮称) 2040 年りたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。
11	策定の「背景」が、縮小化されている。地球温暖化により急激な「気候変動」が起きており、すでに世界中、日本でも深刻な被害が発生しているなかで、「町田は災害が起きていない」などと呑気にしているわけにはいかない。地方自治体として他の自治体にも影響を与えるような先進的役割を担ってほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
12	「交通」視点の弱点について、リニア新幹線、小田急多摩線、多摩都市モノレールがなどに期待を持っているようだが、リニアは、町田の3か所に巨大な穴をあけ、近隣住民に不安と被害をもたらしている。リニアの開業そのものが各角度から危ぶまれている。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
13	ここちよく幸せを感じることができるとか、いい環境とか素晴らしいことばかり書かれているが、現実はどうなのか。	(仮称) 2040 年りたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。
14	「2040 年りたい未来」という日本語がおかしいのではないかと。「2040 めざしたい未来」などのほうが日本語として落ち着いてよい。	「(仮称) 2040 年りたい未来」は2040 年に向けて、将来像に掲げた状態に「なる」ということを意識して表現しています。

15	20年後には70歳まで働く時代になることも予想されるにもかかわらず、基本構想素案によれば、変わらず生産年齢人口を64才以下にしている。70歳近くまで働くことを考えれば、基本構想に示しているほど、生産年齢人口の割合は減らないのではないか。	現在の日本では、生産年齢人口については、15歳以上65歳未満としています。年齢範囲は今後変動していく可能性はありますが、今回は15歳以上65歳未満とさせていただきます。
16	2012～2021の町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」に掲げた5つの未来づくりプロジェクトの大半がまだ実現できていないように思う。このプランとの整合性はどのように考えているのか。	現行の基本計画に基づき取り組んできたことの課題等を踏まえ、変わるべきところ、継続すべきところなどを検討して次に繋げてまいります。
17	今後の計画は、市外からの来訪者・観光などに頼るよりも、社会経済状況の変化の(2)に挙げているテクノロジーの発展に対応できるような市民を育てることの方が大切と思う。町田市は、もっと生涯教育に力を注ぐべきである。未来への投資、定住促進を望むなら、図書館サービスなど、身近なところのサービス拡充こそ、子どもたちへの投資、定住促進につながる。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
18	今後の計画について、なぜ2022～2031が「まちづくり基本目標」で、その先の2032～2039が「経営基本方針」という名前なのかわからない。社会情勢がどんどん変わる時代に、2032年以降の経営基本方針を今から策定するよりも、この5年間の方向性をしっかり市民の意見を聞いて、市民と共有することの方が重要である。	2022～2031年度までの10年間の基本計画部分を(仮称)まちづくり基本目標と(仮称)経営基本方針で構成します。2032～2039年度の8年間についても同様に次期(仮称)まちづくり基本目標と次期(仮称)経営基本方針で構成する予定です。
19	今回の素案では、なりたい未来がどれもあまりにもきれいごとで具体性に欠けている。	(仮称)2040なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。



20	<p>策定の趣旨等は分かりやすく整理されていて読み取りやすく思う。なりたいまちの姿、まちづくりの方向性は構成に沿って政策・施策、取組みを体系的に示す方向で整理してほしい。</p>	<p>冊子の見せ方としては、素案のP4で示した図の順番で上から見せていっています。また、政策・施策・取組などは基本計画部分や実行計画で体系的に示してまいります。</p>
21	<p>長期計画審議会資料の中にSDGsを意識した方向性が大事とのコメントがあったが、表面的なSDGsやESG、CSRにならないように注意することが重要と考える。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
22	<p>このビジョンにも、5年前の目標値が現在どの程度に達成したのか、目標値に達成しなかったのはどの計画なのかを示して、新たなビジョンを描いた方が良いと思う。 また、2040年までのビジョンが書かれているが、そんなに長いスパンの計画で良いのか。</p>	<p>現行の基本計画や実行計画の達成状況については、別にお示ししていく予定です。 また、現行の基本計画に基づき取り組んできたことの課題等を踏まえ、変わるべきところ、継続すべきところなどを検討して次に繋げてまいります。 基本構想部分については、2040年までの期間で見っていますが、その下の基本計画部分は10年、また、実行計画部分は5年を予定している中で変化に対応していきたいと考えております。</p>
23	<p>基本構想において、未来への危機感がないことを危惧する。現在の新型コロナウイルスもしかし、世の中には、地震、洪水、富士山噴火など、今後起こりうるかもしれない災害が多数ある。リニア新線開発は、そのような自然災害を増幅するだけでなく、深刻な汚染をもたらす危険性が指摘されている。今後の減災のための基本的な施策が必要なのに、計画できちんと触れられていないのは大問題だ。</p>	<p>(仮称) 2040 年なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。</p>
24	<p>基本構想の内容は現況の延長上で考えた思いを記したにすぎず、具体的実現性が欠けている。今から20年後を考えるとのであれば、今後時代がどう変わる</p>	<p>(仮称) 2040 年なりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性やなりたいまちの姿など、理念的なことを</p>

	かも含めて考えながら立案すべきではないのか。	記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。
25	税金等、経済的な政策・取組みを組み込まなくて良いのか。	(仮称) 2040 年 になりたい未来は、基本構想に相当する部分であるため、まちづくりの方向性や 年 になりたいまちの姿など、理念的なことを記載しております。より具体的なことについては、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。
26	近年の災害やコロナ禍をみるに、予想を超える、想定すらしなかったことが起きることを考えに入れるべきである。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

## 2. 「(仮称) 2040 年 になりたい未来」の内容に関するご意見 (26 件)

### (1) 2040 年の町田市のイメージ (2 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
27	「人と環境に優しいまち」を究極のローガンにしてほしい。人口減でも 緑の豊かな 美しいゆったりした空間のまちを生み出せば何よりホッとする居心地良い場所になるのではないのか。	キャッチコピーについては、「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」を町田市に関わるすべての方々が、ともに実現を目指すビジョンとするための意識共有の観点から、各種ワークショップ等での市民からのご意見をもとに案を検討しております。今後web投票などにより決定してまいります。また、いただいたご意見については、年 になりたいまちの姿 <sup>2</sup> やまちづくりの方向性 <sup>2</sup> に含まれると考えております。
28	押しつけがましいキャッチコピーは不要である。	キャッチコピーについては、「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」を町田市に関わるすべての方々が、ともに実現を目指すビジ

		<p>ョンとするための意識共有の観点から、各種ワークショップ等での市民からのご意見をもとに案を検討しております。今後web投票などにより決定してまいります。</p>
--	--	--

(2) なりたいまちの姿とまちづくりの方向性（16件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
29	<p>少子化対策は産院・小児科などの医療施設の充実やワークライフバランスの推進など多岐に渡る観点からの目標づくりが必要であると思う。</p>	<p>本市としても少子化対策は喫緊の課題であると認識しております。</p>
30	<p>持続可能なくらしについては、SDGsを意識した町田市らしい取組み目標がほしい。実践可能な目標設定を行ってほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p> <p>また、具体的な指標等については、基本計画や実行計画などにおいて定めてまいります。</p>
31	<p>子どもを生き育てやすいまちづくりを望む。今後更に少子高齢化が進み、社会経済活動の衰退化が懸念されるため、安心して出産育児や就労を支援する環境を整えるべき。</p>	<p>いただいたご意見については、なりたいまちの姿1やまちづくりの方向性1に含まれると考えております。</p> <p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
32	<p>なりたいまちの姿1に関して、「社会全体で子育てしている」という文言があるが、家族やコミュニティの充実を明記してほしい。人口減少の原因は国民一人一人の価値観や生き方が変化した結果で、非婚・晩婚・離婚が影響している。</p>	<p>コミュニティについては、なりたいまちの姿3やまちづくりの方向性3に含まれると考えております。</p> <p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
33	<p>なりたいまちの姿2について、国際版画美術館や史跡や郷土芸能などを大切にす文化・芸術のまちというのは良いのではないか。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
34	<p>高齢者や障がい者にやさしいまちづくりが必要と思う。</p>	<p>いただいたご意見については、なりたいまちの姿3やまちづくりの方向性3に含まれると考えており</p>

		ます。
35	なりたいまちの姿は、「住みやすい」、「働くところ、学ぶところの拠点機能がある」都市である。	いただいたご意見については、なりたいまちの姿2やまちづくりの方向性2に含まれると考えております。
36	源流都市町田は「自由時間都市まちだ」を掲げた街づくりをしてほしい。今後IT社会が、人の自由な時間を増大させる。自然環境を活かして街づくりに取り組めば、緑や自然を求める大勢の都民・市民が町田に訪れることが予想される。	いただいたご意見については、なりたいまちの姿2やまちづくりの方向性2に含まれると考えております。
37	緑豊かな環境と豊かな心を産む文化教育施設が充実している町へ。人口減少の推定を乗り越えていい町にしていければ、新しい住民が移ってくると思う。生活者にとって何が必要か、熟考して市の予算を組んで欲しい。	いただいたご意見については、なりたいまちの姿2やまちづくりの方向性2に含まれると考えております。また、ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
38	なりたいまちの姿を「Creative City Machida」、感性と知性豊かな人を育み、人々の才能と想像力を豊かに引き出す寛容と受容力のある自然豊かなまち」としてはどうか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
39	わたしの「ココチよさ」がかなうまちとして「多摩都市モノレールが延伸することなど、移動便利性和高いという利点があり、市内でよい環境が整いつつあります。」と述べられているが、多摩都市モノレールは決定されたのか。私はモノレールを延伸は必要でないと思う。理由としては、高齢者の利便性は向上せず、環境・健康被害が懸念されるとともに、環境が破壊や電力消費が激しいからである。	なりたいまちの姿については、市民の皆さまのご意見をもとに、まとめております。ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
40	なりたいまちの姿1「ここでの成長がカタチになるまち」、まちづくりの方向性1「子どもと共に成長し、幸せを感じることができる」に関して、幸せと感ずることは個人によって異なる	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	<p>るため、その異なる多種多様な選択肢を用意することは不可能に近い。できることといえば些細なことでも幸せと感じられる心を育てることだと考える。幸せを感じるためには周りのサポートも大切だが、安定した収入も大切であるため、市が職についても支援する必要があると思う。</p>	
41	<p>なりたいまちの姿2「わたしの”ココチよさ”がかなうまち」、まちづくりの方向性2「ちょっといい環境の中で、ちょっといい暮らしができる」に関して、町田は「ほどほどの都会」と「ほどほどの自然」が特徴だと思う。それを活かし、自然を大切にすることを育てることが大切だと思う。</p> <p>具体的には、農業体験やボランティア等の学校行事以外での体験があるとよい。また、「自給自足生活を手に入れられる家」と銘打ち、畑の使用の権利のついた住宅を売り出すことも一案である。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
42	<p>この数年、市民や地域の住民による多摩モノレールの延伸計画に関する情報開示請求は町田市によりほとんどが拒否され、各種の問題点は隠蔽されるばかりで、市長を推進者とする「モノレール延伸促進協議会」が独断先行で推進しているように思う。このような不穏な「多摩モノレールの延伸計画」を内包する本(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040(基本構想素案)は到底認めることはできず、撤回と再考を切に求める。</p>	<p>なりたいまちの姿については、市民の皆さまのご意見をもとに、まとめております。</p> <p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
43	<p>人口動向の変化等もある中で、多摩都市モノレールが所与のものとして「ビジョン2040」に掲げられるのは如何なものか。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
44	<p>将来、IT(AIも含めて)技術は更に進み、現在の仕事が少なくとも半分以上</p>	<p>いただいたご意見については、なりたいまちの姿2やまちづくりの</p>

	<p>がIT化される。この時に町田市が市民に対してどのようなサービスを提供するかが今後の町の存続の分かれ道となる。仕事をする人をいかに多く確保するかが町田市の活性化の重要な要素になると思う。</p>	<p>方向性2に含まれると考えております。 ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
--	---	---

(3) 行政経営のあり方と方向性 (9件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
45	<p>行政経営の姿・行政経営の方向性に関して、政治と行政は感染症問題・環境問題・自然災害・都市問題など近代の諸問題のどれをとっても総合的システム思考とデザイン思考が必要になっており、専門家の知恵の動員と組織の水平的思考による連帯が必要だと考える。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
46	<p>行政経営のあり方(案)における、共創では「市民や地域の人との共創」よりも「団体や事業者などの様々な担い手との対話」の方を重視する立場に立っていることを示している。 公共サービスを担う公共団体やその首長の主要な役割は、それぞれのステークホルダー間の利害の対立を調整して円満にまとめながら行政の経営を進めることだと思う。行政経営に当たって各々の想定されるステークホルダーの立場から想定される問題点をステークホルダーの請求に基づいて情報開示してほしい。</p>	<p>町田市の考える共創とは、市民をはじめ、地域団体、民間事業者、大学など多様な主体が、それぞれのアイディアや技能を形にすることで、より一層、市民中心のサービスを創り上げていくことです。行政の役割は、多様な主体が連携できるプラットフォームを作り、今まで以上に地域の力が発揮できるよう様々なサポートをしていくことと考えています。</p>
47	<p>市政の根本について、「行政経営」の言葉がよく登場するが、市民の生活を「会社経営」のような感覚でとらえるのは間違いだと思う。 人口減、高齢化現象は日本中で起きているため、税収も当然減っていく。しかし、先ず市政の基本的な姿勢をしっかりとさせることが大事だと思う。大型開発等の派手な事業に走らず、地道に身の丈にあった市政をしてほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

48	行政運営資金について、多種多様化する市民サービスを限られた予算の中で質の向上に取り組み、市民に喜ばれるサービスを提供する仕組みづくりが必要である。AI、ICTを活用し、行政のさらなる小規模化、効率化、簡素化を図るべき。	いただいたご意見は、行政経営の姿に含まれていると考えています。 ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
49	行政運営に地域住民、事業者、学校等と協働する施策を積極的に展開すべきである。	いただいたご意見は、行政経営の姿に含まれていると考えています。 ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
50	行政経営の姿と方向性について、気候変動に伴う災害リスクの増大への対応は重要性をましており、特にこれまで経験したことがなかった威力・規模の暴風や豪雨の襲来等、風水害に伴う大規模な停電は、行政経営の姿と方向性に掲げておられる「市民サービスを持続的に提供」を脅かす存在になっている。系統電力停電時への備えは急務である。 停電の緩和策等を「(仮称)まちづくり基本目標(計画部分)」作成段階では、計画に反映してほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
51	市の職員を減らして、指定管理など、民間に任せようとするのではなく、きちんと専門性を持ち、ATやIoT、ロボットなどの最先端テクノロジーを駆使できるような職員の教育をすることが大事だと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
52	なりたいまちの姿4「みんなの"なりたい"がかなうまち」、「多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく」に関して、地震、風水害などの自然災害や感染症の拡大などの危機においても、迅速かつ柔軟に立ち向かう行政経営を進めるとはどのような意味か。災害が起きてしまったからの行政経営でなく、起きることを予想した先手の行政経営を考えてほしい。	地震、風水害、自然災害や感染症など様々な危機に備え、市民生活に不可欠な優先業務を事前に定めるとともに、いざ危機が起きた際には、限られた経営資源を効果的に投入し、市民の生活や市内経済を守るため、市全体で適時・的確に対応していくことと考えています。

(4) 将来人口 (0 件)

該当ご意見なし

3. その他基本構想以外に対するご意見等 (件)

まちづくりに関するご意見 (27 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
53	将来の町田市は、地域ごとの特性・特徴をいかしたまちづくりを考えることが必要で、忠生地区の北西部多摩丘陵周辺地区は「自然・景観・歴史」をいかし都市機能を持つ整備が望まれる。 なかでも尾根緑道は、「自然・景観」が素晴らしい公園道路である。尾根緑道の景観を保つため、隣接する周辺の「公園・緑地」を保全するとともに、周辺の公園緑地の整備として、「相模台地・丹沢連峰・富士山」等の景観が素晴らしい南傾斜の山林の緑地に「桜を中心に各種花を植樹し花の山」とし、散策路、休憩所、展望台の整備を行ってはどうか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
54	大規模な施設を自然公園内に新設するような公園計画より、現在ある自然や環境を生かす方法も考えるべきでないか。例えば自然公園の植物園を過密な場所に縮小移転して運動施設を建設するより、里山環境や公園の緑地をいかしたイベントの企画などソフト面での方策が考えられる。そうする中でこそ「良い環境」や「ちょっといい暮らし」が実現できるのでないか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
55	三密を増進する、パチンコ業、キャバクラ・サロン等の不健全な施設誘致は規制してほしい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
56	町田は、創造的な教育制度、このまちで働ける地場の職場の創造、豊かな自然環境を整備して、職・住・育すべて町田で充実させるべきだと思う。そのため、戦	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。



	後建設された市営・公営等の団地の空室の利用整備・活用を行い、サテライトオフィス・コワーキングスペース・テラス型カフェ等々、ソーシャルディスタンスを確保できる諸施設を増加させることなど、具体的な施策を国などとも連携して推進してほしい。	
57	町田市街地の低層住宅が高層アパートにどんどん変わっている。そこに住む、子供達が健やかに成長できる安心安全な環境を維持できるまちをどう考えているか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
58	町田市には周辺近郊から若者達が集まるにぎやかな繁華街があるが、その環境に彼らは「こちよさ」を感じているであろうか。ショッピングができ、飲み食いもできるが、散歩しても緑を感じて一休みできるベンチがある等の憩いの公園は皆無である。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
59	町田は、幼稚園、保育園、小中学校、医療機関、スーパー、銀行、郵便局、図書館などが地域にあり、大体のことは地域で用が足りる便利な所である。一方で、問題は交通渋滞で、市の計画では公共施設を町中に集約していくようで、それでは更に渋滞が発生してしまう。図書館などの公共施設が地域ごとにある便利で住みよい町田市にしてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
60	自然環境を生かした「自由時間都市まちだ」のまちづくりと、自然を破壊し鉄とコンクリートの塊であるモノレールは相反する。多摩都市モノレールの町田ルート作業に投入する町田市の人材と財源は、「自由時間都市まちだ」を掲げたまちづくりへ投入すべきと考える。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
61	緑が住宅開発等でどんどん失われている。町田の魅力を失わないためには、自然を大切に、開発は止めるべきである。 パチンコ、キャバクラ、サロンなどの遊	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	興施設の誘致は、市民が求める環境とは言えず、町田市として規制をしてほしい。 プロサッカー支援は、文教政策ではなく、商業主義であり、再考してほしい。 また、図書館を減らさないでほしい。	
62	学校のプールが見えるところにマンションを建てないでほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
63	4つの公園の自然が壊されそうになっている。人間も自然の一部である。コロナ禍の中で自然と調和し、ゆったりした静けさの中で子どもたちを育てたい。 またコンクリートだらけになるモノレールは町田市にとって必要ない。市民の足の確保というならば、高齢者に優しいミニバスなどの要望に応え、地域の足となるこまめな公共交通を充実するべき。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
64	駅周辺の巨大開発は、市財政の負担が大きすぎて、真の意味の都市の発展、市民の幸福感の保持とは相いれない。巨大開発は町田のような中小都市が選択すべきではない。商業資本・不動産資本などがどれほど市財政に貢献しているのかを分析すべきである。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
65	玉川学園の商店街に駐車スペースがほしい。停車時間によって駐車料金が違う機械を設置していただきたい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
66	多摩都市モノレールの延伸について、予定地域住民は納得しているのか。利用者は良いとしても、その真下の近隣の住民には迷惑な存在ではないか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
67	緑豊かな人と環境に優しい美しい街にするため、現在進められているモノレール建設に反対である。モノレールは巨大な橋脚により、日照権問題や、環境、景観を損なう恐れがある。CO2を出さない電気自動車のバスなど、巨大建造物を造らず、柔軟な対応、対処出来るものに変えるべきである。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	<p>自転車専用道路を整備してほしい。歩行者道路、バリアフリー等を充実してほしい。</p> <p>現在の街並みは雑然と統一感無いので、街路樹の整備や電柱の地中化によって美しい街並みを作してほしい。</p> <p>鶴川駅前に郵便局を設置してほしい。</p> <p>町田市に大学病院並みの充実した病院がほしい。市民病院は先生がいないなど不安定な診療状況であり、充実させてほしい。</p>	
68	<p>歩行者用道路、自転車用道路の整備、弱者への配慮、道路工事期間の短縮、公園環境の整備、電線の地中化、環境問題への対応、病院施設の充実を行ってほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
69	<p>多摩センター駅から町田駅までのモノレール計画・工事が進められているが中止してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
70	<p>市内の緑道づくりについて、原町田～恩田川～日向台～薬師池～小山田緑地、原町田～恩田川～子どもの国ルート等を整備してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
71	<p>いま暮らしている市民の健康や生活を守らずに、13年後の経済を優先にした計画は止めてもらいたい。モノレールが大きな経済効果を生むのかも定かではない。建設推進に当たっては、再度、必要な総額や工期・メリット、デメリット双方・他の交通システム等(PTPS付きのBRTバス)を、広く全市民に公開してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
72	<p>ホテルの住める、朝小鳥のさえずりが聞こえる町田を取りもどしてほしい。モノレールの大きな橋脚は必要ない。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
73	<p>玉川学園は道が狭い行き止まりが多く、救急車は入れても消防車は入れない。これから異常気象が続くと考えると傾斜地に家がどんどん建てられることが心配。建築基準法に合っているだけで許可され</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

	て、立地を考えないような許可のされ方は疑問である。	
74	北部丘陵地域も開発計画を農業中心ではなく、まったく新たな計画で開発してはどうか。例えば、北部丘陵地域に大きな公会堂の様な建物を作り、その周りに2000台程度の駐車場を作る。又モノレール駅と小山田延伸で出来る駅とをバスで結び、残りの土地は地形をそのまま生かして、昭和記念公園の様な大きな公園にして周辺地域より人を呼びこむ様な土地開発を行ってはどうか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
75	何でも民営化をするのはやめてほしい。市民だれもが安心して暮らせる住みやすいまちにしてほしい。 芹が谷公園の自然を守って下さい。モノレールを通さないで下さい。地域やまちの景観を壊さないで下さい。 大型開発はやめて下さい。 東京都の多摩格差を無くすよう都に要請して下さい。 シルバークラス都県境に適用して下さい。 給食の無償化(全員給食)や20人学級を実現して下さい。 図書館を減らさないで下さい。 障害者の仕事を無くさないで下さい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
76	JKK「町田森野団地」及びJR横浜線と小田急線交差点の駐輪場エリアをベースに市の繁華街につなげた広大なオアシス公園を設計してほしい。境川を利用した親水広場も併設してほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
77	町田市では現在地域の図書館の削減や民間企業への委託化、市民の親しんできた野津田公園のばら広場の大幅縮小移転などが、請願などの市民意見を無視する形で進められている。このような市民意見の及ばぬ様な施策や計画は、市民生活の未来に対し懸念や絶望をもたらし、市民自治にむける意欲をそぎかねない。そこで、町田市で今後進められるべき施策の	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	方向としては、まず市民の声を取り入れる仕組みを作り、市民自治の具体策を進めることが必要だ。	
78	小田急多摩線も小山田に新駅創設で、ここに「街」を出現させようとしている。人口減少の中、無理して建造物をつくり人口を増やすという手法は、ゼネコン、土建屋、不動産屋、地主などに巨額な利益をもたらすだけである。しかも小田急との関係では、巨額の費用負担を負うことになる。費用対効果の点でも市民にとっても大きな損害を与えるため、反対である。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
79	原町田大通りの延伸、その後のモノレール延伸のために自然と現在住んでいる人々の生活が破壊されることは残念です。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

#### 子育て・教育に関するご意見（17件）

80	人口減少・少子化対策のためには町田市に子どもを生み育てやすい環境を整えることが一番大事である。 例えば、1クラス20人程度の少人数学級の実現し、学校給食の自校給食と無償化、教育費の無償化（教材費など）を実現してほしい。 また、保育園は待機児がでないように公立保育園を増やしたり、中学生までの医療費無償化を行ったりしてほしい。 他にも地域の文化・祭り、自治会、地域住民がやっているボランティア活動の継承などを支援してほしい。また、学校は統廃合するより地域の拠点や災害避難時として生かしてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
81	障害者や子どもやお年寄りに優しいまちをめざすのであれば、福祉施設の支援、障害を持った者が働ける所の維持、少人数学級・給食の実現、待機児童ゼロ、社会保障の充実、老人クラブの活性化、子	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	育てしやすい歩道の整備、子どもと高齢者の医療費の無償化などを実施してほしい。	
82	ゆとりある教育を実施してほしい。小学校の低学年は25人学級、中学年以上と中学校は30人学級でゆとりある教育の実現を目指してほしい。 通学時間を今以上かかるのは子供に負担がかかる上、地域に学校がないとますます高齢化になる。学校は災害時の避難所としての役割も担っている。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
83	町田市において少子化に伴う対策として、小中公立学校の統廃合と学校区域変更が検討されている。学校の統廃合・学校区域変更については、「地域と子どもと学校」が一体化することが望ましいと思う。又学校づくりは、「地域・風土ごとにあった特色を出す運営」、「少子化の時代に向け子どもの縦のつながり運営」、例えば、「小山田中・小山田南小・小山田小」の統廃合による「小中一貫教育」により「子どもの成長」と「地域の成長」が望まれる。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
84	今回の「まちだ未来づくりビジョン2040」ではまちづくりの方向性を「子どもと共に成長し、幸せを感じることができる」として、「町田市で子どもを産み、育てていきたいという確信が持てるまちになれば自ずと出生数は増えていく」と分析している。子育て層から選ばれるまちにするには、学校を減らすことではなく、今ある学校を充実させ、豊かな教育環境にすることが大事だ。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
85	市として、子どもの国保税減免制度、保育の給食費の無料化、中学校完全給食、小学校の給食費の援助などを充実して、子育てにやさしい町田市になっても恣意ほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
86	人口増につながる世代は、子育てに関わる世代であり、そのために子育てしやすい	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	<p>い環境を整えることが必要である。</p> <p>共働きが当たり前になってきている今日、保育で困っている保護者を出さないために、認可保育園の新設、拡充が必要である。また、給食費の無償化など他の自治体などにはない施策を取り上げ実施すべきだ。保育士の待遇改善で保育志望の学生に選ばれる町田市にすることも重要である。</p> <p>学童保育の充実も進めるべき。学童保育の予算を拡充し、指導員の待遇改善、施設の拡充をすすめてほしい。子どもセンターも、中学校区に一つは必要だと思う。</p>	<p>ます。</p>
87	<p>少子化対策として以下の取り組みを行ってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の住居への家賃補助</li> <li>・妊娠から出産までの費用は全額補助</li> <li>・養育費の補助</li> </ul>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
88	<p>中学校も小学校同様の給食にして健康な体作りをしてほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
89	<p>「教育と福祉の町田」に30年以上前に引っ越してきたが、教育である中学校給食は30年たっているのに何も変わっていない。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
90	<p>町田市は、過去にも学校統廃合を「学校適正規模適正配置」の名のもとに実施した。しかし、このことによって、豊かな教育環境を破壊し、教育の質の低下を引き起こしたと思う。小規模校になっただけで統廃合したことを二度と繰り返してはならないというのが、私が体験した中での1998年答申による学校統廃合の教訓である。学校を大規模に減らす学校統廃合を中止し、今ある学校をいかして、町田市の教育の充実を真剣に進めることこそ町田市がとるべき道である。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
91	<p>「校舎の老朽化」を口実にして、教育の質の低下につながる学校統廃合を進める</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

	ことは許されない。町田市が長期的な視点から計画的に今ある学校施設を更新していくことは当然の責務である。	ます。
92	<p>コロナ禍の中で1学級の適正規模を40人学級ではなく20人学級にしてはどうか。</p> <p>小中学校すべて20人学級にするということは文科省が出した現在の教室におけるソーシャルディスタンスである。全国には、少人数学級を実現し、そのための予算を独自に手当てしている自治体がある。町田市は今こそ全国に先駆けて20人学級を実現し、子ども達へ希望のプレゼントを届けてほしい。豊かな教育環境を実現する視点から全学級20人学級に踏み出すチャンスと捉え、1学級の適正規模の論議をすすめてほしい。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
93	<p>小学校では、全員給食を実施しているのに中学校になると全員給食がなくなる。都内で中学校全員給食を実施していない自治体は4つである。これでは子育て世代に選ばれる町田市になることができない。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
94	<p>リニアやモノレールの開発に予算をつぎ込むよりも、子供たちの未来を豊かにするため、教育、保育に予算をしっかりと使うべき。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
95	<p>中学校の「給食」も施策に入れられないようでは、子どもに「喜び・幸せ」を約束できないと思う。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
96	<p>小学校の学級の人数を30人以下にすれば、学級数が増え、廃校にする必要がなくなる。学童保育も学校の空き教室で可能である。</p> <p>地域住民と児童生徒の交流活動もスムーズに行うことができ、学校区で子供を見守ることができる。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

#### 交通に関するご意見（16件）



97	<p>小山田地域は公共交通の利便性が悪く、移動には車が必要である。このままでは、これからの高齢化社会で地域全体が取り残されてしまうため、もう少し交通の利便性を上げてほしい。そこで、未来づくりビジョンのなかに「小山田新駅周辺のまちづくり」を項目に入れて、推進してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
98	<p>バス拠点・鉄道等交通網の整備を望む。忠生地域から町田駅へのバスは時間を要し、淵野辺駅、古淵駅へのバスの本数は少なく、通勤、通学、お出かけ等に非常に不便な現状がある。早期にバス拠点の設置、多摩モノレールと小田急多摩線の延伸を実現してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
99	<p>忠生地区北西部に住む住民の東京都心への鉄道交通は、時間がかかり不便である。未来の忠生地区北西部の都市交通体系として、「多摩都市モノレール延伸新駅・小田急多摩線小山田新駅・及びリニア中新幹線橋本駅」などの計画と「自然環境と調和した都市基盤整備」を促進することが重要だと思う。現行の「町田駅集中型」の交通体系を見直し「混雑解消、時間短縮・快適な交通体系」を図り、それぞれの「新線の新駅」から快適に都心に向かうためには、「駅と駅」を結ぶ「巡回周遊バス」等で最寄り駅に行ける交通手段が大事である。この都市基盤整備として、都市計画決定・周辺道路整備計画の促進、巡回バス運行計画等について早期促進を図られるよう要望する。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
100	<p>「モノレールをこれからのすべてのまちづくりの前提にする」(2018年 施政方針)は撤回すべき。市民に今の時代に即した BRT や LRT の選択肢についてしっかりと知らせるべきある。何が本当に町田の公共交通として相応しいか見ようとしなくなっていると感じる。急ぎ広い</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

	視野をもち検討しなおすべき。	
101	多摩モノレールの延伸が計画されているが、反対である。多摩市から町田駅までのルートでの自然環境に与える負荷の大きさを考えると、取りやめて自然を残すべきと思う。延伸による利便性がさほど大きくない一方、コストがかかりすぎである。 町田市でもますますお年寄りが増えるなか、必要な公共交通は小回りの利くバス路線の充実ではないかと思う。バスの利便性の方がはるかに大きいと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
102	野津田のリニア新幹線、町田市中心部へ通すモノレールに莫大な予算をつぎ込むことに反対である。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
103	町田市近隣で、AIを活用した路面バスあるいは、人口の3分の1を占める高齢者にとって安全で便利な小型バスの小まめな運行配置を進めるべきである。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
104	小田急多摩線の唐木田→相模原→上溝への延伸には賛成である。一方、多摩都市モノレールを町田まで延伸することには反対だ。利便性向上には省エネタイプの小型バス網への整備で対応すべきだと思う。そうすれば自家用車減少にもつながる。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
105	踏切近くの混雑解消のために、直進する車が通れなくならないように右折で踏み切りの開くのを待つ車の待ち場所を路面にかいていただきたい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
106	玉ちゃんバス北回りに反対まわりをふやしてほしい。さくらんぼホール経由をふやしてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
107	鎌倉街道方面から横浜方面へ抜ける車が狭い坂道なのにスピードを出して通るため、鶴川街道にカーブミラーと速度制限を設けてほしい。年寄りや子ども、歩く人には非常に危険である。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
108	玉川学園の北口駅前にロータリーを設置してほしい。改札口まで行く間で停車で	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	きるスペースがほしい。	ます。
109	高齢化、人口減少社会へ対応した快適なまちづくりのためには、大規模交通システムより、小回りの利くバス、市内循環バスやコミュニティバスが必要ではないか。モノレールを進めるのであれば、新しい公共交通システムである BRT を導入する方がよいと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
110	神奈中バスの路線図について、南北分断している路線は、市を分断しています。つくし野～市民病院、本曽団地～成瀬路線づくり、あるいは継続乗り換え切符を発行してほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
111	トラムや BRT を導入したテナントなど効率がよくパフォーマンスの高いシステムを民間の交通機関とタイアップして検討することは面白いと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
112	多摩都市モノレールの計画にしがみつくのは間違いである。東京都の承認があってはじめてこの計画は成り立つが、東京都にはその余裕がないことは明らかである。オリンピック・コロナ対策で都財政は、逼迫しており、何年先に実現できるかわからない「事業」に市民を誘導するのは、政策「詐欺」に等しい。また、「モノレール」事業計画は各地方で撤退している古い発想にもとづくものである。発想を変えて「バス高速システム」や「次世代型路面電車」などの選択をすべきである。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

#### 公共施設の整備等に関するご意見（8件）

113	地域に歩いて行ける図書館や生涯学習施設があることは、若い家族にとっても高齢者にとっても魅力だと思う。長年かけて地道に築いてきた8館の図書館はこれからも育てていくべきであるし、まだない所には造っていくとよいと思う。市民としては、図書館員は正規で、司書の豊	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
-----	--	-----------------------------------

	<p>富な経験を持つ方に担ってもらいたい。安易に民営化し丸投げすることは慎んでほしい。</p>	
114	<p>町田には、「スポーツ・文化的なことに触れる機会」が足りないと思う。スポーツをする場所や文化的なものに触れる施設がほしい。</p> <p>スポーツに興味を持ってもらうためにマラソン大会やサイクリングの大会（一般市民が参加できる大会）で町田市の物産もアピールできるようなイベントを実施することや、文化的なことを普及させるために、クリエイターの集まる場を作ることなども一案である。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
115	<p>図書館に対する市民の要望が強いにもかかわらず、市は利用者の減少と財政悪化を理由に予算を削っている。図書館の機能やニーズを踏まえ、運営の工夫など検討してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
116	<p>学校、図書館の統廃合には反対である。今の40人学級では十分な学習効果をあげるのは困難である。また、統合により通学が遠くなることは問題である。身近な学校・図書館は必ず来る大地震など災害時に、体育館などは近場の避難所として必要不可欠だと思う。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
117	<p>学校は地域の宝である。また、大災害時には住民の命を守る施設となる。</p> <p>大規模災害など今後想定外のことが起こることを考えると、学校の施設は地域住民の命を守る施設としてとても重要である。町田市が今なすべきことは、統廃合ではなく、今ある一つ一つの学校の機能を子どもたちに最大限に豊かにすることであり、地域になくしてはならない防災拠点として機能させることだ。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
118	<p>町田市民は文化的な活動が盛んであり、町田市の公共施設を利用した市民団体や個人の活動で、市民センターなどの部屋はいつもいっぱいである。しかし、市民</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

	<p>の活動量に比べて安く使える施設は不十分であり、使いやすい文化施設、スポーツ施設が足りないと思う。町田の中で文化事業、スポーツ事業に携わる図書館司書、スポーツ指導員、文芸員の身分保障をはじめ待遇の改善、重要な人員の拡充など進めていくことは文化のまちづくりに欠かせない。</p>	
119	<p>公共施設は民営に頼らず、行政が運営してほしい。</p> <p>日常的に使う公共施設は、駅周辺ではなく小学校区ぐらいの生活圏にほしい。特に、図書館・博物館を維持してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
120	<p>シバヒロ（旧市役所跡地）を活用し、幼児向けの芝生の遊び場も残しつつ、高齢者、中年、若年で使える施設を作してほしい。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

#### 環境に関するご意見（6件）

121	<p>昨今は、地球温暖化が日々進んでいる状況下で台風、洪水、熱波などの異常気象による災害が深刻化している。環境劣化の影響で世界の食料事情も悪化し、食料の多くを輸入に頼っている日本は他人事では済まされない。こうした事柄に対してどう対処しようと考えているのか。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
122	<p>パリ協定にて世界中で温暖化ガスの削減に取り組んでいる昨今、「ココチよさが叶うまち」と称して電力多消費のリニア新幹線の開発や、高架を走って高齢者たちにとっては使い勝手の悪いモノレールに期待を寄せているようでは時代の流れから遊離した計画になると懸念している。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
123	<p>住宅開発により次々に緑が失われており、町田の本来の魅力が失っている。中心街の緑は見当たらず、安心して休憩したり会話したりできる緑の空間作りを</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

	市として取り組んでほしい。	
124	町田の最大利点の自然緑地の確保をしっかりとしてほしい。 小規模の宅地開発が進んでいるが、その小規模が拡がることで「大規模」な住宅群に発展していく。とくに、「農地」「自然林」の保全には、「規制」「補助」「援助」などをさらに強化していくことが求められる。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
125	南町田駅周辺、尾根緑道などで、立派に育った樹木を無慈悲にも大伐採している。今後、20年間「みどり」を守る点でも量、質ともに増える近郊農業も視野に入れた施策が必要である。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
126	リニア中央新幹線については開業どころか建設そのものに反対である。自然を破壊し、利用者を危険にさらすこのような建設は即刻中止させるべきだ。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

#### 高齢者福祉に関するご意見（5件）

127	市として、高齢者にはシルバーパスの都県境が利用できるようにすることや、補聴器補助制度で、高齢者にやさしい町田市になってほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
128	高齢化が進む市民のために医療、介護にきちんと予算を使うべきだ。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
129	高齢化対策について具体的な視点が述べられていない。高齢者の実情と現場を良く知っている町田市が、医療、介護、社会保障などの自らの改善施策をしながら、「国」「都」に積極的に提言・意見を発信していく必要がある。町田市内では、町ごとに高齢者数が違い、人口比50%近くのところもあれば、20～30%台のところもある。その町ごとにあつた対策を求める。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
130	高齢化対策の施策として以下の取り組みを行ってはどうか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険料・介護保険料の減額</li> <li>・健康診断のかかりつけ医での実施</li> <li>・町トレの拡充</li> </ul> <p>また、市の福祉予算を削るために、無償のボランティアに頼る高齢者福祉政策ではいけない。</p> <p>デイサービス利用の介護認定が厳しくなっており、従来の基準に戻すべき。</p>	ます。
131	<p>高齢者が生活できる社会を作ってほしい。</p> <p>健康保険料引き上げやごみ問題など市民の要求に耳を傾けてほしい。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

#### 防災・防疫に関するご意見（5件）

132	<p>風水害や地震などの大規模災害が発生した際の安全安心な取り組みはあるのか。</p> <p>無計画に乱立している高層アパートの住人や子供たちはどこへ避難するのか。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
133	<p>ハザードマップでの危険性を広報するだけでなく、地域の人々の理解を推進してほしい。</p> <p>新たに感染症対策で必要となったものがあると思われるため、不足用具の点検と補充をしてほしい。</p> <p>重機等災害の復旧に要する機器を持つ企業などとの連携の強化を図ってほしい。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
134	<p>コロナ対策を実施するべきだ。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
135	<p>保健所における感染症対策など、市民の健康づくり・安全確保に向けて人も物も拡充してほしい。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
136	<p>新型コロナ関連として以下の点を要望する。</p> <p>1 医療用マスクや衣服・感染症対策用の備品、設備等の備蓄</p> <p>2 医師会・保健所・町田市・都内の市区町村・都・国との瞬時の連携プレーと情報公開</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

	3 発熱外来病院指定と市民へのお知らせ 4PCR 検査病院や場所の拡充とお知らせ 5 小中学校の学級人数の少人数化	
--	---	--

#### 農業支援に関するご意見（４件）

137	町田の農業を支えて欲しい。 町田の郊外には良い農地が沢山残っているが高齢化で農業の担い手が本当に少ない。農業に魅力を感じる若い世代も近頃増えているので働きやすく子育てしやすい環境を整えてほしい。学校給食でもまちだの有機野菜を使うのも一案。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
138	小山田地域の膨大な手つかずの市有地(山林・農地)の有効活用を考えないと近々に荒地となり手がつけられなくなると思う。小山田地域の市有地(山林・農地)の活用も考えてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
139	町田で都市農業を続けている人を奨励援助してあげてほしい。小学生が身近なところで見学体験できる事は素晴らしいことである。コロナのおかげで食料の流通のことを考え地場農業を大切にすることを学んだと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
140	町田市の農業を守り、地産地消を推進するため以下の取り組みを行ってはどうか。 ・学校給食に地元の有機農産物・減農薬の農産物を提供して、健康な子供の育成 ・町田市生産の農産物の販売促進 ・町田市の農家と地元住民との交流推進	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

#### 働く環境の整備等に関するご意見（４件）

141	子育て世代の女性にとってパートでなくフルタイムで働くことができる環境を整えるために、本社機能を備えている企業の誘致にもっと力を注いでほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
142	誰もがほっとする「まち」について、町田の市街地にテレワーク・スポットを整備して、町田ビジネス街をつくってはど	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。



	うか。	
143	若者の起業を手助けするために郊外の空き教室など公共の施設を提供して、自主運営させてはどうか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
144	地方経済の活性化、雇用の拡大を図り、地域経済を循環させてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

### 共生社会に関するご意見（3件）

145	町田市に住んだり訪れたりする外国人のために、市と商工会および関連企業が連携して町田市全域にある広告掲示板看板等人々の目に入るすべての日本文字に平仮名を付記してほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
146	人と人のつながりについて、市内に異文化交流の広場をつくり、多くの人々が自由に参加できる空間づくりを推進してほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
147	多文化共生社会に向けて、多言語の対応をしてほしい。町田市でも推進していると思うがいつ実現するのか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

### 定住促進に関するご意見（3件）

148	町田は家賃が高い。山崎団地は空き家が半分近くあるようで、このままだとますます高齢化してしまう。ぜひ市に住む若者や子育て世帯に家賃を補助し、若者が住み続けられる町田市にしてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
149	老人の一人住まい・跡継ぎがない・空き家住宅・住宅管理不能、地域社会活動の後継者不足などの対策として、2世代・3世代の住宅の奨励し、地域・町田市の人口定着を図る都市づくり・まちづくりを推進してほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
150	施策として三世代家庭への支援をお願いしたい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

## 文化・芸術に関するご意見（1件）

151	<p>芸術の杜事業として「芹ヶ谷地区」を広域広場と位置づけ、陶芸、ガラスエ芸、絵画、版画、手作り品などの工房を設け、手作り品(民芸品)のメッカとして市内の有志と市が手を携えて、推進してはどうか。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
-----	---	--

## 地域コミュニティに関すること（1件）

152	<p>町内会は未来づくりビジョン2040の様に、「未来の住民が勉強し、成長・良きカタチが或る町」、「子どもの為、幸せで有ることを感じる町」、「心地よく、良好な環境の中で住める町」、「環境の価値、緑きれい、河が有りほっとできる町」、「各々住民が尊重のできる町」を目指すべき。 以上のようなことを考えることができる、心の憩となる場所として、集会場建設を強く要望する。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
-----	---	--

## 自治体間連携に関すること（1件）

153	<p>地域の人的資源を活用しているのは良いことだが、地域の自治の拡大も検討すべきだ。また、周辺地域との連携、隣接する横浜市緑区などとの関係をもっと強化すべきである。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。 また、自治体間の協力関係構築に努めてまいります。</p>
-----	--	---

## その他のご意見（5件）

154	<p>市の収入を増やすために、マンホールに企業名を入れる広告料を取ったり、街路樹のプレートに企業名を入れ広告料を取ったりするのはどうか。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
155	<p>市民に対し、受益者負担の原則をお願い理解するよう報じてほしい。</p>	<p>受益者負担の原則につきましては、「受益者負担の適正化に関する</p>

		基本方針」に基づき、市民の皆様にご負担をお願いしています。ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
156	このコロナ禍で、貧富の格差が生じています。失業者も急激に増加しており、「生活保護者」の申請もそれに比例すると思われる。政府が「貸困格差」の拡大路線に突き進んでいけば、いずれ破たんするのは、明らかである。「新自由主義」とは距離をおいて「地方自治の本旨」にもとづく「行政運営」をしてほしい。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
157	今まで数回にわたり、都市マスタープランづくりなどに参加し、意見を提示しているが、その成果が行政に反映されたという実感はほとんどない。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
158	プロサッカー支援は文教政策ではなく、商業主義ではないか。	ご意見の趣旨につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

○問合せ先

町田市政策経営部企画政策課

〒194-8520 町田市森野2-2-22

電話 042-724-2103

FAX 050-3085-3082

E-Mail seisaku010\_02@city.machida.tokyo.jp

## 基本構想素案のパブリックコメント実施状況

●実施期間：2020年6月15日～7月15日

●意見数

40名、158件のご意見をいただきました。

分類	件数
策定の主旨、構成、過程に関するご意見	26件
「(仮称)2040なりたい未来」に関するご意見	26件
その他、基本構想以外に対するご意見	106件
合計	158件

●主な意見の内容

- ・抽象的な説明が多く、実効性に不安を感じる。
- ・近年の災害や新型コロナのような予想外の危機が起こることを念頭に置くべきである。
- ・地域内外の組織や事業者、地域住民との連携を積極的に推進するべきである。
- ・社会で今後さらに進んでいくIT化に合わせ「行政経営の効率化」が必要であり、そのためにIT分野における専門性を持った職員を育成する必要がある。
- ・出産・教育・労働環境・文化芸術等に対する支援を充実させ、子育て世代に選ばれやすいまちにしてほしい。
- ・交通の利便性向上は必要であるが、モノレールやリニア新幹線などの開発においては自然との共生も考慮する必要がある。
- ・災害等の危機への対策強化にもっと力をいれるべきである。

●今後のスケジュール

- ・9/15号の広報まちだに結果掲載。同時に町田市ホームページにも結果掲載。

---

# **(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040**

「(仮称) 2040 なりたい未来」(基本構想原案)

---

2020年8月

町田市



(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040  
「(仮称) 2040 になりたい未来」(基本構想原案)  
目 次

<はじめに>

<b>第 I 章</b>	<b>(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 がはじまります</b>	<b>2</b>
1	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の趣旨	2
2	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の位置づけ	2
3	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の構成と期間	3
4	(仮称) 2040 になりたい未来の構成	4
5	(仮称) 2040 になりたい未来の策定過程	5

<基本構想>

<b>第 II 章</b>	<b>(仮称) 2040 になりたい未来</b>	<b>7</b>
1	2040 年の町田市のイメージ	7
2	なりたいまちの姿とまちづくりの方向性	8
3	行政経営の姿と方向性	14
4	将来人口	16

<策定の背景>

<b>第 III 章</b>	<b>(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の背景</b>	<b>18</b>
1	町田市はこんなまちです	18
	(1) 町田市はここに 있습니다	18
	(2) 交通の結節点とされています	18
	(3) 子育て世帯から選ばれています	20
	(4) 子どもにやさしいまちです	23
	(5) みどりがいっぱいあります	23
	(6) 商都町田と呼ばれています	24
	(7) 大学も学生もたくさん	25
	(8) 地域活動が盛んです	26
	(9) 町田で地球温暖化はすすんでいるのか	27
2	社会経済状況の変化	28
	(1) 人口減少と人口構成の変化	28
	(2) テクノロジーの発展	29
	(3) 都市構造の変化	30
	(4) 公共施設の老朽化	31

<はじめに>

## 第 I 章 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 がはじまります

### 1 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の趣旨

日本全体の人口は、2008 年の 1 億 2,808 万人をピークに減少局面に移行し、町田市の人口も 1958 年の市制施行以来、一貫して増加を続けていたものが、2018 年に初めて減少に転じました。

2040 年には団塊ジュニアと呼ばれる人々が 65 歳以上の高齢者となり、2004 年に約 16% だった高齢者人口の割合は約 37%<sup>1</sup>にまで増加することが見込まれています。対して、約 70% だった生産年齢人口の割合は約 53%にまで減少するという推計が出ています。

一方、近年の AI（人工知能）や ICT（情報通信技術）等の急速な進展は、より多様で柔軟な働き方ができる社会を実現させていっています。また、世の中の消費動向が“モノ”から“コト”へと転換、更には時間や目的の共有を重視する方向へシフトするなど、私たちの生活は変革の時を迎えています。

町田市では、このような社会経済状況や人々のライフスタイルの変化を大きなチャンスと捉え、誰もが夢を描くことができ、幸せを感じられる未来をつくるために、「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」を策定します。

### 2 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の位置付け

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」は、市民や地域団体、市内事業者など町田市に関わるすべての方々が、共に実現を目指していくビジョンとし、その実現に協力していただける人から新たに関わりを持っていただける人まで、多くの方を惹きつける魅力的なビジョンとして策定します。

そして、町田市におけるまちづくりの基本指針を示すとともに、市政運営の基本となるビジョンとします。

<sup>1</sup> P. 28 グラフ「町田市における将来人口の推計結果」を参照



### （1）（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040 の構成

「（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040」は、基本構想部分を担う「（仮称）2040 になりたい未来」と基本計画部分を担う「（仮称）まちづくり基本目標」及び「（仮称）経営基本方針」で構成されます。

また、ビジョンの実現に向けて、具体的な事業と取組を示す実行計画（5 カ年計画）を策定します。

#### ① （仮称）2040 になりたい未来

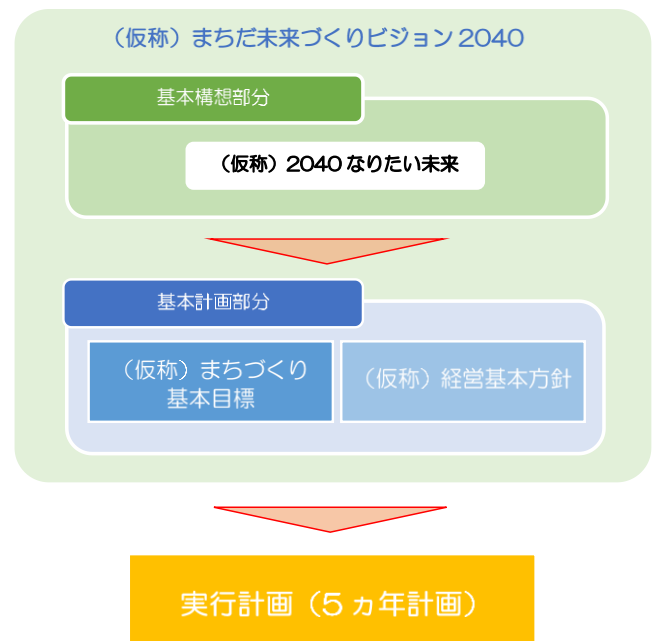
まちづくりの方向性、行政経営の方向性を明らかにし、方向性に沿って進んでいった未来の姿を「（仮称）2040 になりたいまちの姿」（都市像）、「（仮称）行政経営の姿」（経営像）として掲げます。

#### ② （仮称）まちづくり基本目標

「（仮称）2040 になりたい未来」で掲げた、（仮称）2040 になりたいまちの姿に沿った政策・施策を体系的に示し、（仮称）2040 になりたいまちの姿に至るための目標を設定します。

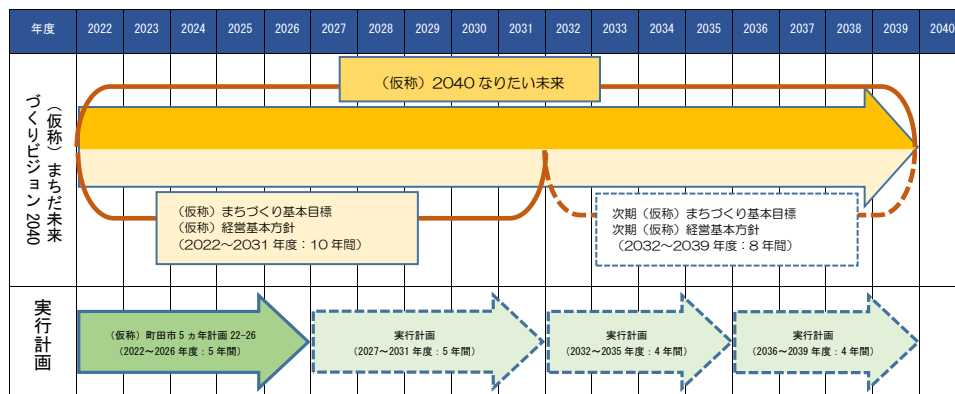
#### ③ （仮称）経営基本方針

「（仮称）2040 になりたい未来」で掲げた、行政経営の姿に沿った取組を体系的に示し、「（仮称）まちづくり基本目標」を支える行政の経営方針を示します。



### （2）（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040 の期間

基本構想部分を担う「（仮称）2040 になりたい未来」は、2022 年度から 2039 年度までの 18 年間、基本計画部分を担う「（仮称）まちづくり基本目標」及び「（仮称）経営基本方針」は、2022 年度から 2031 年度までの 10 年間と、2032 年度から 2039 年度までの 8 年間とします。



これまでの町田市のまちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など、多くの「人」によって支えられてきました。そして、それはこれからも変わらないことであり、多様であることが当たり前の社会においては、一人ひとり生き方の違う「人」が、それぞれのライフステージにおいて活躍できる環境があることがより重要になってきます。

このことを踏まえ、「(仮称) 2040 になりたい未来」では、誰もが夢を持ち、その夢を実現できるまち、一人ひとりが輝けるまちとなるため、町田市のまちづくりの方向性となりたいまちの姿、そして、行政経営の方向性と行政経営の姿を明らかにするとともに、2040 年の未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして定めます。





## (2) 検討の過程

まちづくりの方向性やなりたいまちの姿、行政経営の方向性や行政経営の姿については、以下のような過程を経て作成しました。

### 【まちづくり】

1 町田市の良い点・悪い点・改善点や2040年までに必要な環境等について意見交換

みんなの想い・願い

<検討の場>  
①地区別意見交換会(タウンミーティング)  
②大学生とのワークショップ  
③高校生とのワークショップ  
④子育て世帯インタビュー  
⑤外国人市民インタビュー  
⑥市民意識調査

2040年の未来になってほしい町田市の姿をつくるため、地域にお住いの皆様との意見交換会などを開催しました。

2040年

2 まちづくりの方向性を審議

まちづくりの方向性

<検討の場>  
①第2回長期計画審議会(2019年10月11日)  
②第3回長期計画審議会(2019年12月16日)

1でいただいた意見を基に、まちづくりの方向性を作成しました。

2040年

3 なりたいまちの姿を検討・審議

なりたいまちの姿

<検討の場>  
①高校生とのワークショップ  
②無作為抽出型市民ワークショップ  
③第3回長期計画審議会(2019年12月16日)  
④第4回長期計画審議会(2020年2月3日)

まちづくりの方向性を基に、2040年に向けた未来の町田市の姿を作成しました。

2040年

### 【行政経営】

1 町田市を取り巻く行政経営の主な現状と課題や2040年にかけて起こる主な変化・課題を整理

今後の行政経営のあるべき姿

<検討の場>  
①行政経営監視委員会  
②学生とのワークショップ  
③市政モニターアンケート調査  
④行政経営に関する職員意識調査  
⑤職員ワークショップ(人材育成基本計画)

2040年を見据えた今後の行政経営について有識者等から3つの重要な視点をいただくとともに、学生や市政モニターの皆様から意見をいただきました。

2040年

2 行政経営の方向性を審議

行政経営の方向性

<検討の場>  
①第3回長期計画審議会(2019年12月16日)  
②第4回長期計画審議会(2020年2月3日)

「2040年を見据えた今後の行政経営に対する3つの重要な視点」を基に、行政経営の方向性を作成しました。

2040年

3 行政経営の姿を検討・審議

行政経営の姿

<検討の場>  
①高校生とのワークショップ  
②職員ワークショップ  
③第3回長期計画審議会(2019年12月16日)  
④第4回長期計画審議会(2020年2月3日)  
⑤第5回長期計画審議会(2020年4月28日)

行政経営の方向性を基に、2040年に向けた町田市の行政経営の姿を作成しました。

2040年


4 未来の町田市のイメージを作成

キャッチコピー

<検討の場>  
①第5回長期計画審議会(2020年4月28日)  
②キャッチコピーの市民投票(2020年秋頃)

まちづくりの方向性となりたいまちの姿から表される、未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして作成します。

2040年

※  は各段階における主な検討対象

## 第Ⅱ章 (仮称) 2040 年 なりたい未来

### 1 2040 年の町田市のイメージ

町田市は、2040 年に向けたまちづくりの方向性となりたいまちの姿、行政経営の方向性と行政経営の姿をそれぞれ明らかにし、それらによって表される未来のまちのイメージを「〇〇（キャッチコピー）」と定め、これからの町田市を皆さんと一緒に創っていきます。

# キャッチコピー

以下、キャッチコピーの説明文を記載。

※キャッチコピーは町田市長期計画審議会で選定された候補を 2020 年度中に web 投票にかけて決定していく予定です。

### なりたいまちの姿 1



## ここでの成長がカタチになるまち

2040年という未来のまちの中心的な役割を担い、第一線で活躍しているのは、いまの子どもたちです。人口減少が進む中、子どもたちがずっと住み続けたいと思えることは、将来にわたり選ばれるまちの重要な要素となります。

子どもの頃の素敵な思い出は大人になっても忘れないものです。町田市は、子どもたちに様々な経験やチャレンジの機会を提供するとともに、自由で柔軟な発想を受け入れる環境を整え、まちへの誇りや愛着の醸成につなげていきます。そして、子どもたちが自分の成長を有形・無形問わず何らかのカタチとして実感し、自身の未来を描いていってほしいと願っています。

一方で、周りの大人たちが楽しく暮らしていてこそ子どもたちの健やかな成長があります。親や祖父母はもとより、普段子どもとあまり接点のないような大人たちまでもが互いに協力し合って社会全体で子育てしている、そういうことが当たり前ができるまちならば、みんなの心に余裕が生まれ、大人だって成長していくことができるはずです。

子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれている、町田市はそんなまちになることを目指します。

## 子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019 年度に行った調査では、町田市の希望出生率は 1.91 という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率は 1.24 前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望がかなっていない状態にあるといえます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望をかなえていく必要があります。


町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していってくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていききたい、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てること、このことを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくってほしいという願いを込め、(仮称)まちだ未来づくりビジョン 2040 では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまちです。町田市は 2040 年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。



## わたしの“ココチよさ”がかなうまち

東京の郊外に位置する町田市は、個性なお店が軒を連ねる中心市街地で買い物や食事を楽しめる一方、市の北部などには豊かな自然があり、アウトドアライフを満喫することもできます。

また、大学や専門学校などが集積した学生のまちという側面や、サッカー、フットサル、ラグビーのホームタウンチームを有するスポーツのまちという側面、国際版画美術館をはじめ、史跡や郷土芸能などを大切にする文化・芸術のまちという側面もあります。

そして、小田急線と JR 横浜線が交差する交通の結節点であること、新幹線駅に程近いこと、多摩都市モノレールが延伸することなど、移動利便性が高いという利点がテレワークの普及などと相まって、市内に軸足を置きながら仕事ができる環境が整いつつあります。

このように町田市は、仕事、学び、遊びなどの拠点機能を備えており、ひとりでもみんなでも、何か行動を起こすのに最適なまちです。2040年においてもこの特性を土台に、思い思いの暮らしを描くことができる環境を提供していくとともに、昨日よりも今日、今日よりも明日と、生活の質の向上をちょっとずつでも実感できるよう日々成長し続けていきます。

ちょっといいちょうどいい暮らしの先には、それぞれにとってのココチよさがかなえられている、町田市はそんなまちになることを目指します。



## ちょっといい環境の中で、ちょうどいい暮らしができる

2040年を見据えたとき、AIやICTに代表されるテクノロジーの更なる発展、一億総活躍社会の実現に伴う働き手の多様化など、私たちの日々の暮らしや仕事のあり方は今とは大きく異なっていることが予想されます。


時間や場所などにとらわれないライフスタイルが前提となったとき、生活の拠点として町田市が選ばれていくためには、人を惹きつける価値を提供できるまちである必要があります。長く都心のベッドタウンとして人々の生活を支えてきた町田市が提供できる価値を考えたとき、それは特別な何かではなく、居心地のよさや気楽さ、ちょうどよさを感じられる日常というものなのではないでしょうか。

日常の中にあるといいちょうどよさとは、例えば、働くということにおいてであれば、サテライトオフィスやコワーキングスペースなど、近くに働ける場所やビジネスパートナーを見つけられる場所がある、どこかへ出向く際は快適に移動できる交通基盤がある、仕事帰りに買い物や食事を楽しめる魅力的なお店があるなど、ちょっといい環境があるということが挙げられるかと思います。

一方、働き方の変化などによってもたらされる仕事以外の時間、言うなれば自分の時間をどのように充実させるかということも非常に重要です。この点では、みどりを身近に感じることができる、各地域で面白いイベントがたくさんある、誰かのために活動する機会を得ることができる、それらへの交通アクセスが充実しているなど、暮らしを豊かにする物事が周りにたくさんあり、また、それを思い立ったときにすぐ実行できる、ちょうどよく手に入るということが大事になってきます。

都心から程近く、都市機能と自然環境が共存し、広域交通にも恵まれている町田市は、仕事の時間や自分の時間の過ごし方の選択肢がたくさんあり、それぞれにちょうどいい暮らし方を選べるまちです。

2040年に向け、このポテンシャルを更に引き出し、住む人、働く人、学ぶ人、近隣に暮らす人たちまでもがワクワクできる、職住近接に暮らしの楽しさをプラスした生活の拠点となるような、“いいことふくらむ”まちづくりを進めます。



## 誰もがホッとできるまち

国際化の進展に伴う外国人労働者の増加や、新たなテクノロジーを背景とした働き方の自由度の向上などによって、2040年の町田市は、より一層多様な人が集まるまちになっていることが見込まれます。

様々な境遇や考え方の人が暮らす中にあるには、必要とする人が必要な支え合いの輪に参加できてこそ、地域のつながりの力が発揮されると考えられます。そしてそれは、自ら進んで入っていきたくなるような、あたたかい寛容に満ちたつながりであることが望まれます。

お互いを尊重し、それぞれがそれぞれにできることを行う、このことを大事にすれば、年齢や障がいの有無などに関わらず誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会を形成することができるのではないのでしょうか。

また、多様な背景を持つ人たちが、自分たちの暮らす地域のことを自分たちで考え決めていくことができれば、これまでなかったような地域ごとの特色が生まれ、居心地がいいと感じられる地域の選択肢が増えることにもつながっていきます。

人と人がつながり、多様な価値を尊重し合える関係性の先には、誰もがホッとできる居場所を地域の中に見つけられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

## 人と人とがつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる

私たちの暮らす社会は、子どもから高齢者まで、多くの方が支え合うことで成り立っており、2040年になってもそれは変わらないでしょう。誰もがかつては子どもであり、歳を取れば高齢者になります。支える側、支えられる側のどちらにもなり得ることを思えば、自然と支え合いができてきているような関係性がいつの時代も求められているといえます。

一方で、家族のかたちや友人との距離感、地域との付き合い方など、支え合いの土台となる人と人とのつながりは、時代と共に変化するものでもあるため、それらを受け入れ、みんながゆるやかにつながれることが、まちの魅力の一つとなります。

また、風水害や地震などの大規模災害が発生した際にも、助け合える仲間がいるということは、まちに暮らす人々にとって大きな安心となります。このような点からも、普段は意識していないけれど、いざという時にみんなとつながれるということは、非常に重要であると考えられます。

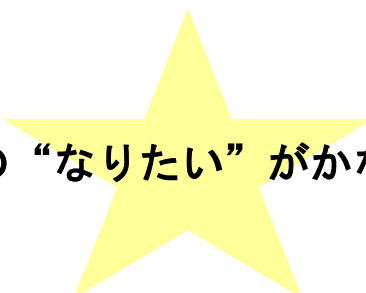
性別、年齢、国籍などの違いに加え、生き方や信条、住み方の違い、あるいは、地域と積極的に関わっている人、そうでない人など、町田市には様々な人が暮らしています。お互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮できる、そんな地域であれば、生涯住み続けたいと思える愛着が生まれるのではないのでしょうか。

更に、多様な人たちが、多様な考え方の下、地域資源の使い方や安全・安心への取組など、自分たちで必要なことを考えて地域をつくり続けていくことができれば、お互いに学び合い、高め合うことで、地域に化学反応を起こせるとともに、まちへの誇りや責任を持つことにもつながると考えられます。

多様性を認め合うことが当たり前の時代にあっては、地域にも多様なあり方があって然るべきであり、そこから新たな価値が生まれてくるはずです。

2040年に向け、このように、温かい人と人とのつながりがあり、どこか懐かしいけど新しさも感じられるまちづくりを進めます。

#### 行政経営の姿



## みんなの“なりたい”がかなうまち

人口減少や人口構成の変化、価値観の多様化など社会構造が大きく変化していく中、行政経営においても、これまでも増して多様な公共サービスを展開していくことが求められています。

また、地震、風水害などの自然災害や感染症の拡大などの危機に対しても、これまで乗り越えてきた経験を生かしながら、新たな発想で市民サービスを持続的に提供していく必要があります。

このため、市民、地域、事業者など様々な担い手とともにまちづくりに取り組むことで、これまでにない新たな価値を生み出し、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが、これからの行政経営にとって大切なことであると考えます。

そこで、町田市の持つ情報をオープン化し、町田市の特性や課題を示していくことで、様々な担い手が、その解決に向けて“投資したくなる”“関与したくなる”仕組みをつくります。

また、テクノロジーを活用し、公共サービスのスマート化を進めていくことで快適で利便性の高いまちを実現していくとともに、町田市の持つ魅力と強みをいかした公共サービスを広く展開していきます。

2040年に向けて、多様な主体と共に、市民一人ひとりに最適な公共サービスを展開していくことで、市民の生活をより豊かなものとし、市民それぞれのなりたいを叶える行政経営を目指します。

## 多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく

町田市の総人口は、今後、減少局面に移行していくとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年頃に高齢者人口がピークを迎えることが見込まれています。

高齢者人口の増加は、医療・介護給付、生活支援等のニーズを高める一方で、人口減少は、日常生活や事業のために必要な担い手を確保することが難しくなるなど、公共サービスの需要と供給の両面において大きな変化をもたらします。

そこで、これまでの行政経営のあり方を改めて見直し、これらの変化に適応したものへとデザインし直す必要があります。

また、AI や IoT (モノのインターネット)、ロボットなどテクノロジーの進化は目覚ましいものがあります。中でも、感染症の世界的拡大を受けたりモータ化の急速な進展は、人々の働き方に大きな変化をもたらしました。テクノロジーを駆使して様々な工夫を凝らし、これまでの窓口中心の公共サービスのあり方を見直すなど、新しい発展の基礎を築くことができれば、市民の生活を快適で利便性の高いものとしていくことが可能となります。加えて、IoT などにより集約した様々な情報を分析することで市民ニーズを的確に捉え、必要な人に、必要なサービスが、必要な分だけ提供できるようになり、地域の課題に効果的に対応していくことが可能となります。

行政経営においても、このようなテクノロジーの取り込みを強力に推進し、市民に上質なサービスを提供していくことが求められていきます。

更に、市民のライフスタイルや価値観は、今後も変化・多様化していくことが予想されます。あらゆる公共サービスを行政だけで提供していくのではなく市民、地域、事業者など、まちづくりに関わる様々な主体との連携を深め、これまでにない多様なサービスを生み出すことができれば、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが可能となります。

そのためには、これまで以上にまちづくりに関わる多様な主体が連携し合う仕組みを作り、人や企業の多彩な知恵と行動を結集して地域課題に対応していくことが重要だと考えます。

多様な主体と共に、町田市の持つ魅力や強みをいかしたサービスを持続的且つ安定的に提供していくとともに、社会経済環境の変化を的確に捉え、あらゆる事態においても迅速かつ柔軟に立ち向う行政経営を進めます。

## 4 将来人口

---

2040年における、町田市の将来人口を40万人と想定し、「(仮称)2040 なりたい未来」の実現に向け、皆さんと一緒にまちづくりを進めます。

2040年の将来人口

40万人



## 第三章 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の背景

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」策定の背景には、以下のような全市的な観点から見た町田市の特性や、将来的な社会経済状況の変化があります。

### 1 町田市はこんなまちです

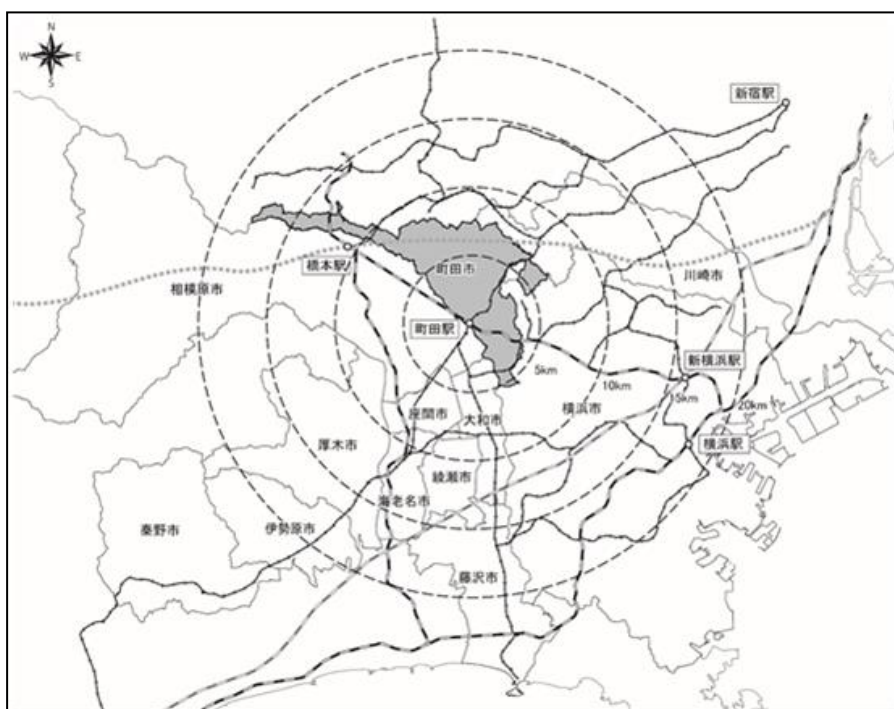
#### (1) 町田市はここに 있습니다

- 町田市は、東京都の西南端に位置し、都心から西南 30~40km、横浜市中心部から西北 20~30km の距離に位置しています。市域は、東西 22.3km、南北 13.2km、面積 71.55 km<sup>2</sup>で、多摩地域 26 市の中では 4 番目の広さとなっています。
- 地形は、多摩丘陵の北部域に位置し、市域の南西側は境川によって区切られています。丘陵域は鶴見川、境川の源流域となっているため、都心近郊にありながら、豊かな自然環境を有しています。

#### (2) 交通の結節点と言われています

- 市域の主要な交通網のうち、鉄道は JR 横浜線、小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の 4 路線が通っています。町田駅から新宿駅、横浜駅、ともに約 30~40 分程度で結ばれ、広域的な公共交通の利便性に恵まれているものの、どの路線も市域の外縁部を通過しているため、市内を移動するための主な公共交通の手段はバスとなっています。
- 幹線道路は、市の南端に東名高速道路の横浜町田インターチェンジがあるほか、国道 16 号や国道 246 号といった広域幹線道路へもアクセスしやすい位置にあります。

町田市の広域的な位置

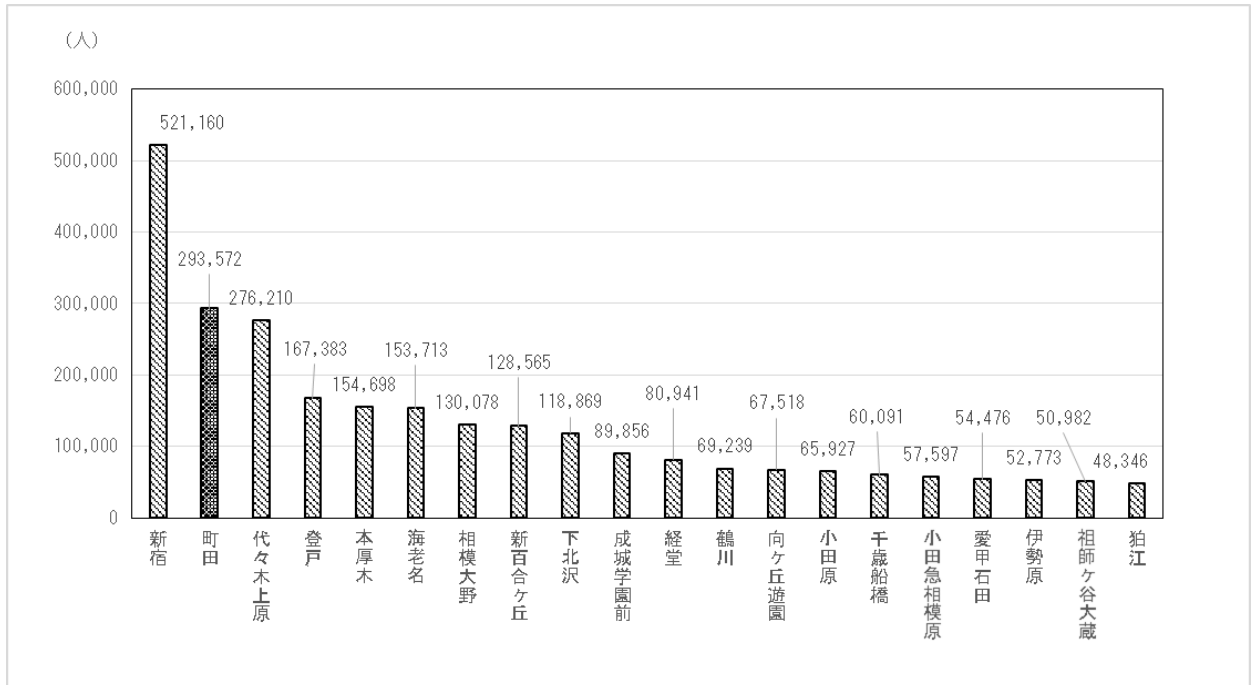




○小田急線小田原線と JR 横浜線が交差する町田駅は、1日の平均乗降人員・乗車人員が小田急小田原線では新宿駅に次ぐ第2位、JR 横浜線では第1位になっています。

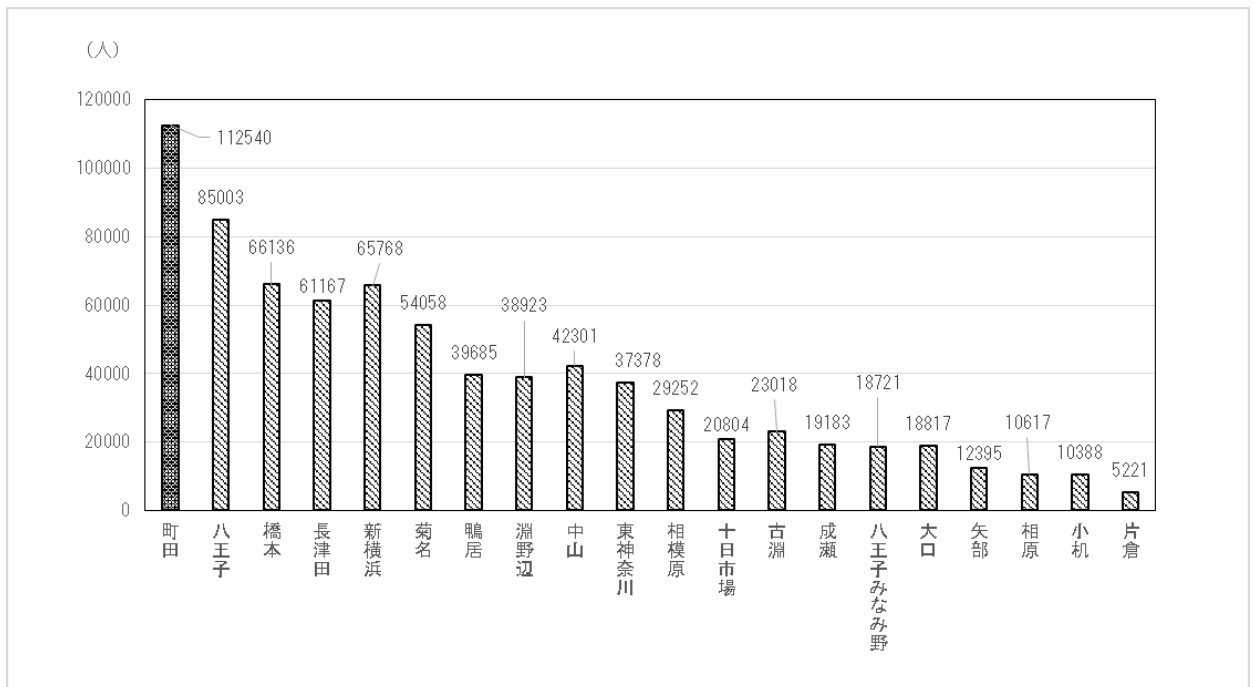
小田急小田原線の各駅1日平均乗降人員（上位20駅）

出典：小田急電鉄（株）資料（2018年度）



JR 横浜線の各駅1日平均乗車人員

出典：東日本旅客鉄道（株）資料（2018年度）



### (3) 子育て世帯から選ばれています

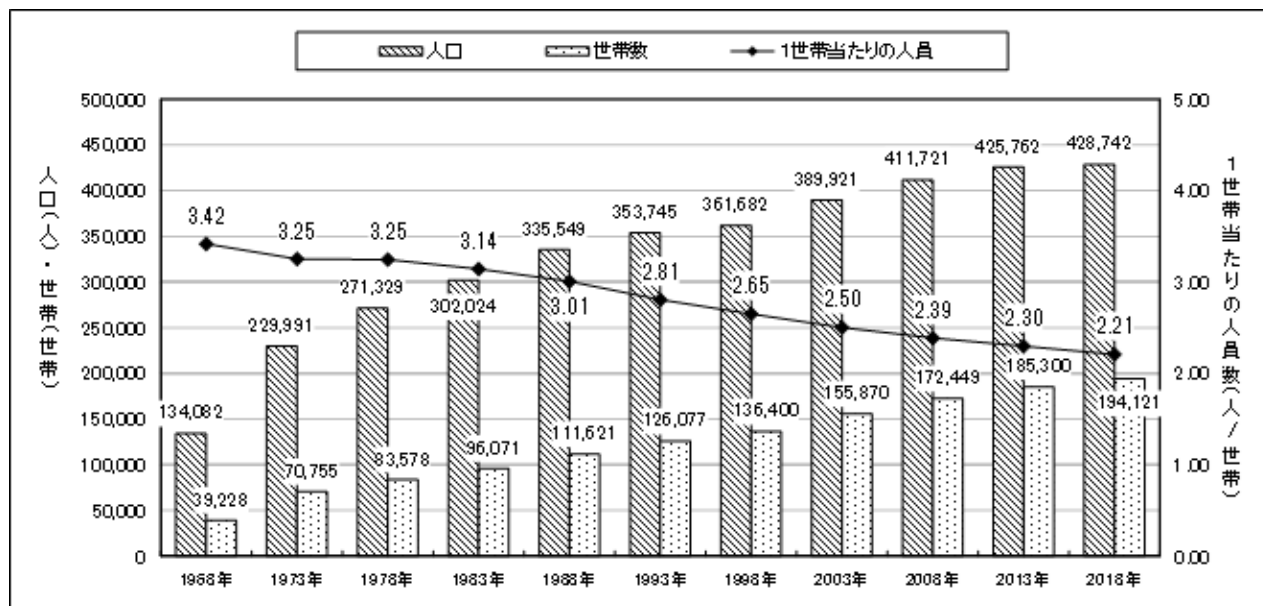
#### <人口・世帯数>

○2018年1月1日現在の人口は42万8,742人であり、1968年の13万4,082人の約3.2倍となっています。また、世帯数は、2018年1月1日現在では19万4,121世帯で、1968年の3万9,228世帯と比べて約5倍に増加しています。

#### 町田市における人口・世帯数・1世帯当たりの人員の推移

出典：町田市「住民基本台帳人口（各年1月1日現在）」

注）2013年以降は、外国人人口を含む。

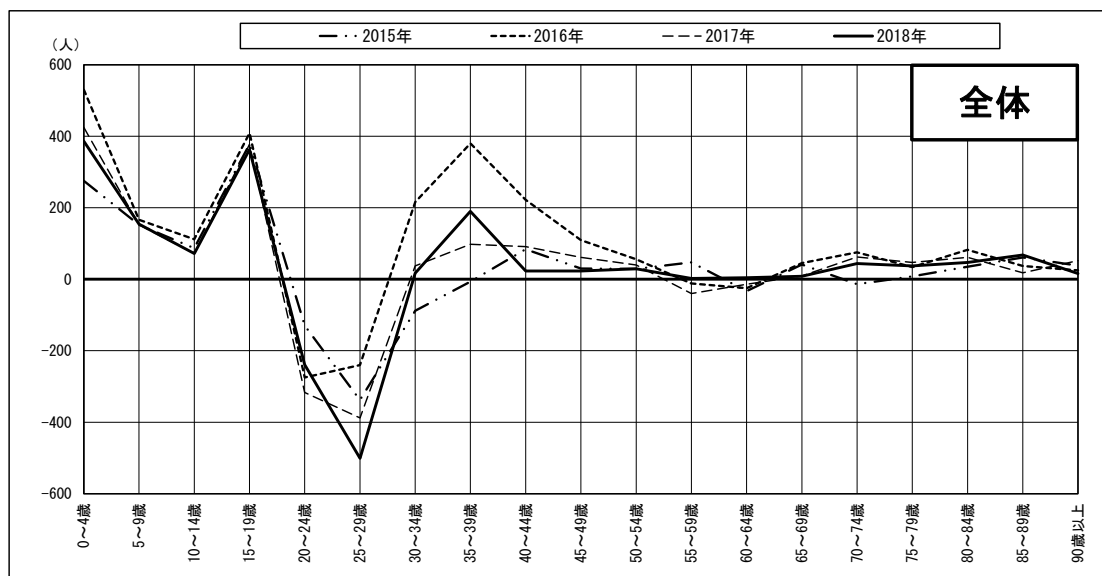


#### <人口移動>

○「住民基本台帳人口移動報告」に基づき、2015～2018年における社会増減数の推移をみると、0～19歳及び35～44歳は概ね転入超過傾向にあります。対して、20～29歳は転出超過が続いている状況です。

#### 町田市における5歳階級別の社会増減数の推移（全体）

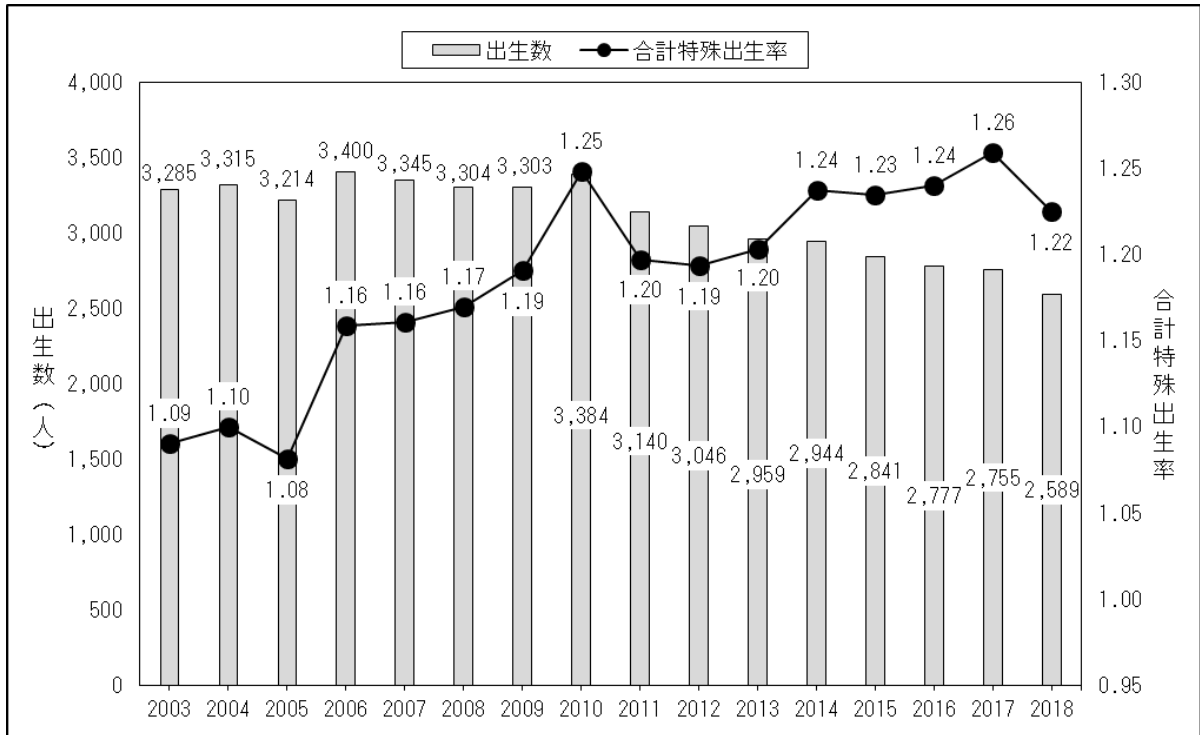
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（各年）」注）日本人人口のみ。



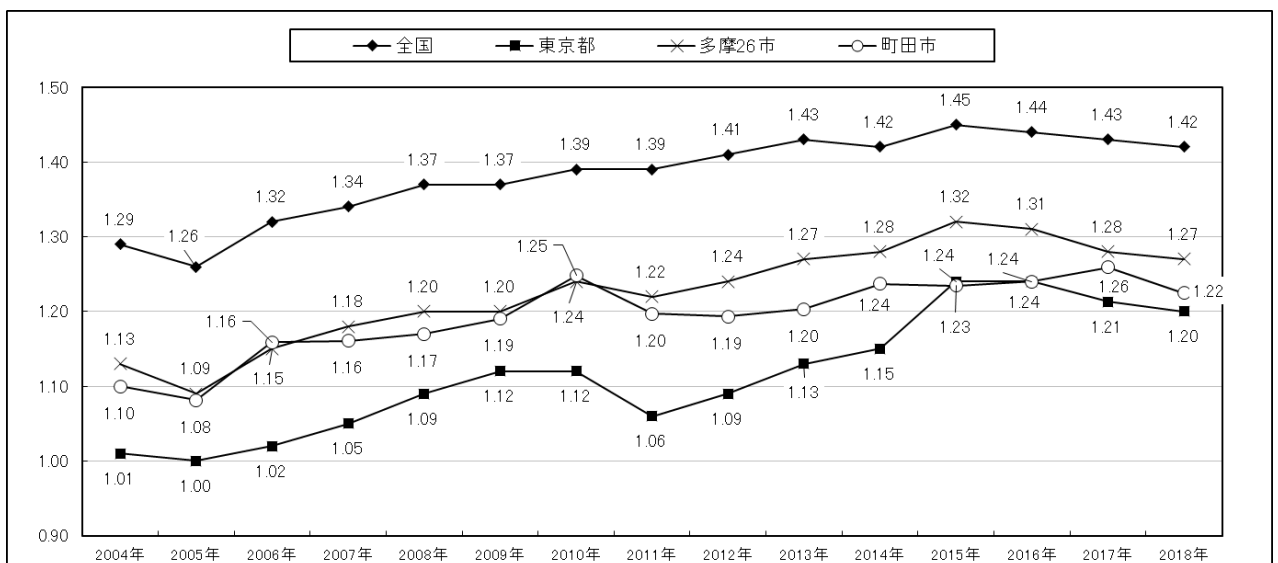
### <出生数と合計特殊出生率>

○町田市における出生数を見ると、2010年までは3,200～3,400人前後を維持してきたものの、2011年以降は年々減少しています。一方、合計特殊出生率はおおむね上昇傾向にあり、2017年には1.26となっています。

町田市における出生数と合計特殊出生率の推移  
出典：東京都保健福祉局「人口動態統計」



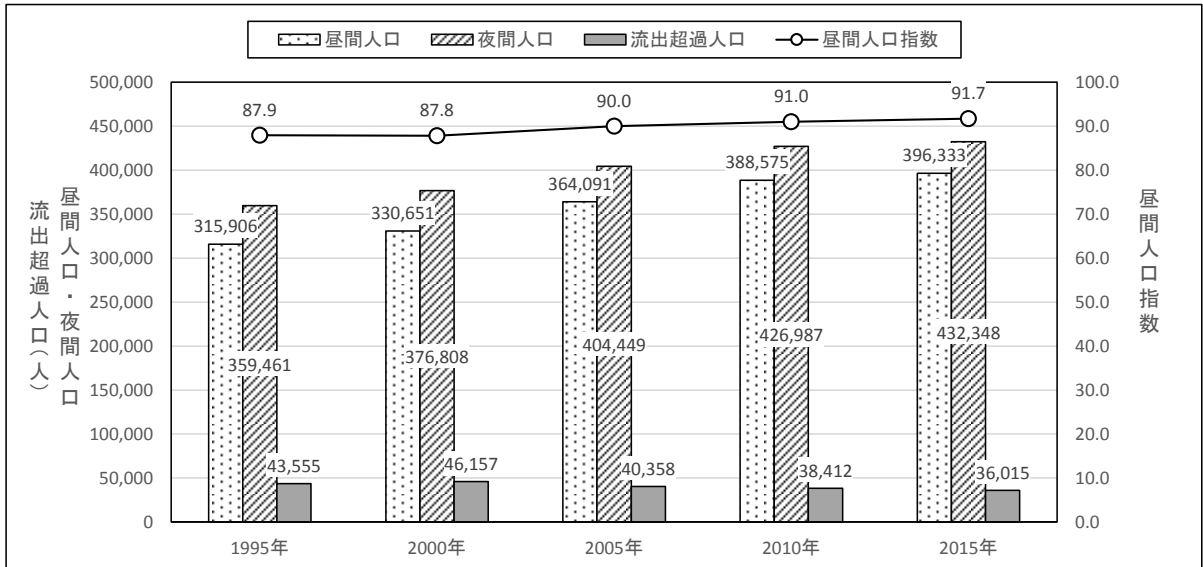
合計特殊出生率の推移の比較  
出典：厚生労働省「人口動態統計」



## <昼夜間人口>

- 1995～2015年まで一貫して昼間人口は夜間人口を下回っており、流出超過の傾向にあります。流出超過人口は1995年の43,555人から2015年の36,015人へ7,540人(17.3%)減少しており、昼間人口指数は2015年には91.7と1995年の87.9と比較すると3.8増加しています。

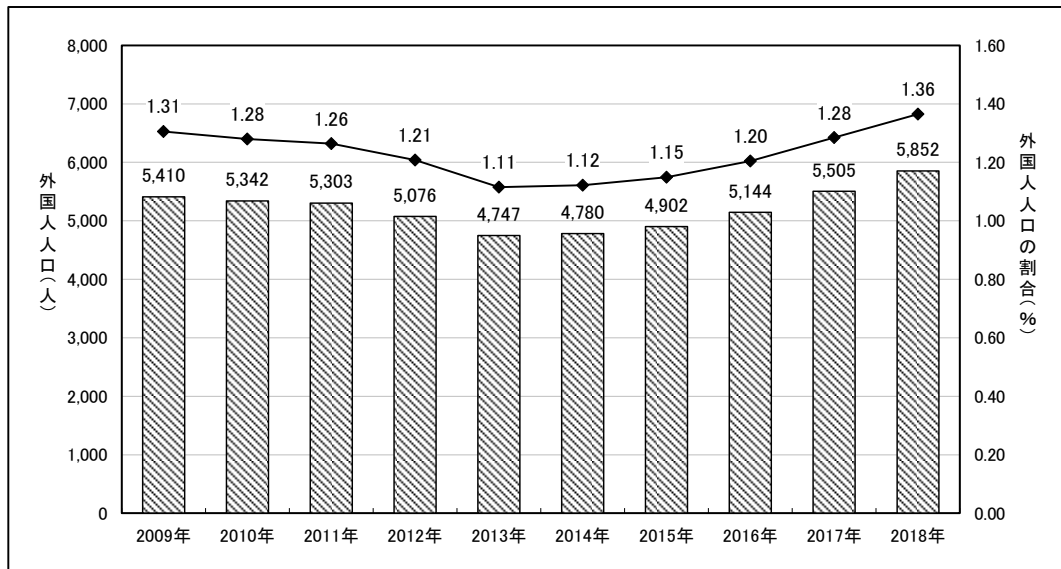
町田市における昼間人口・夜間人口等の推移  
出典：総務省「国勢調査（各年10月1日現在）」



## <外国人人口>

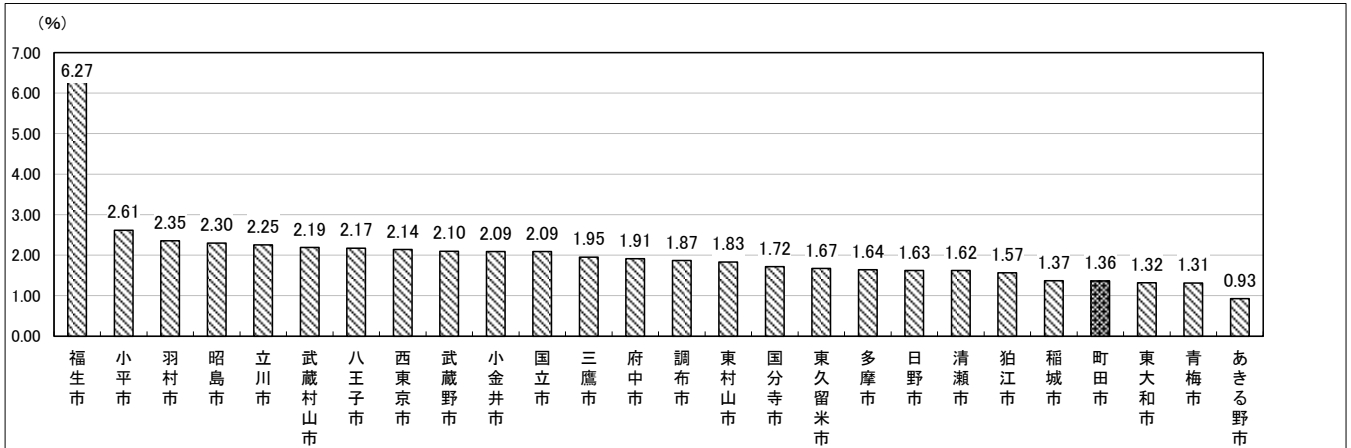
- 町田市の外国人人口は2013年までは減少傾向で推移してきたものの、その後は増加傾向に転じ、2018年には5,852人と2013年の4,747人と比較して1,105人(23.3%)増加しています。また、総人口に占める外国人人口の割合は2018年に1.36%となっています。

町田市における外国人人口の推移  
出典：町田市「町田市統計書」



- 外国人人口の割合を多摩 26 市で比較すると、町田市は低い方から 4 番目と相対的に外国人人口の割合が低い水準にあります。

外国人人口の割合の都市間比較（2018 年 1 月 1 日現在）  
出典：東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（町丁別・年齢別）」



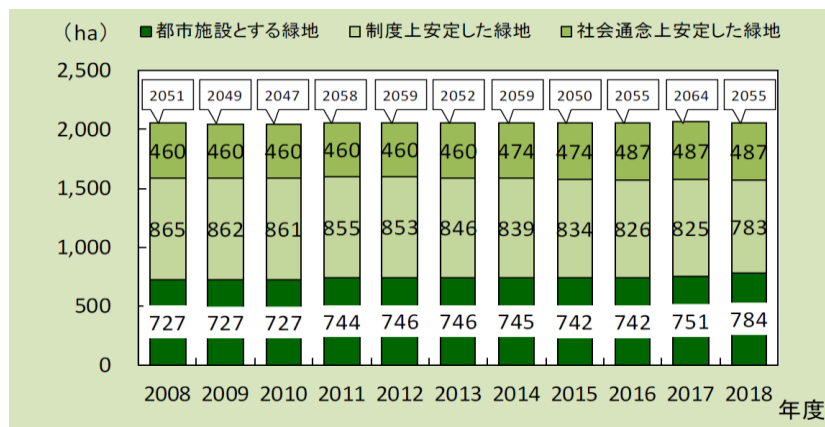
#### (4) 子どもにやさしいまちです

- 町田市は、保育所等の整備を通じた待機児童解消の取組や、子どもセンターや冒険遊び場の設置等による子どもの居場所づくりが子育て世帯から評価された結果、2016 年の年少人口の転入超過数が全国の市区町村（政令指定都市を除く）の中で第 1 位になりました。
- 市民参加型事業評価では、2017 年度から評価人に高校生を迎えるなど、子どもの参画に関する取組が評価され、(公財)日本ユニセフ協会から「日本型子どもにやさしいまちモデル」の検証自治体として委嘱を受けています。

#### (5) みどりがいっぱいあります

- 身近な公園等である「都市施設としての緑地」や、生産緑地、風致地区、ふるさとの森に代表される「制度上安定した緑地」、学校や社寺境内地等の「社会通念上安定した緑地」などを含めると、町田市全体の公園等の緑地面積は 2018 年度で約 2,055ha となり、市域面積の 29%を占めています。

町田市における公園等の緑地面積  
出典：町田市「町田市環境白書 2019」



○225.9ha、1,066地区の生産緑地(2017年3月31日時点)があり、対市街化面積比は4.1%となっています。また、生産緑地決定面積は多摩26市の中で2番目の広さとなっています。

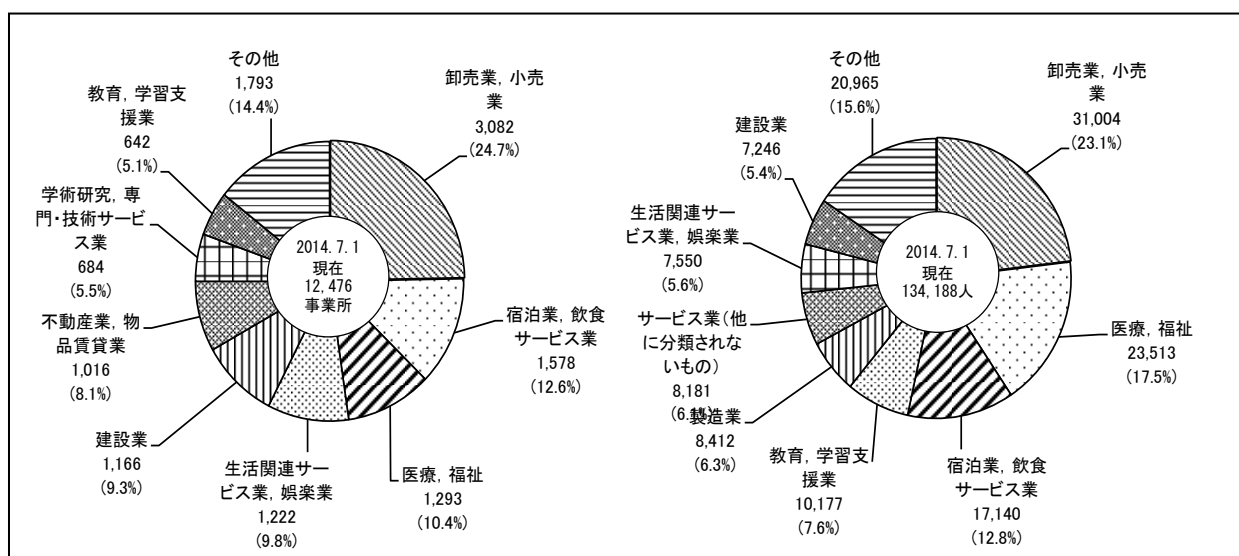
生産緑地面積の都市間比較(決定面積の大きい順)  
出典:国土交通省「都市計画現況調査(2017年3月31日)」

順位	市名	市街化 区域面積 (ha)	生産緑地		
			決定面積 (ha)	地区数 (地区)	対市街化 区域面積比 (%)
1	八王子市	7,980	238.8	1,072	3.0
2	町田市	5,481	225.9	1,066	4.1
3	立川市	2,083	203.2	380	9.8
4	清瀬市	1,019	174.2	264	17.1
5	小平市	2,046	169.2	368	8.3
6	東久留米市	1,280	144.4	306	11.3
7	三鷹市	1,650	138.2	303	8.4
8	青梅市	2,183	133.3	719	6.1
9	東村山市	1,696	131.2	335	7.7
10	国分寺市	1,148	127.6	256	11.1

#### (6) 商都町田と呼ばれています

○「平成26年経済センサス基礎調査」によると、2014年7月1日現在、事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く3,082事業所で、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の順となっています。また、従業者数でも、「卸売業、小売業」が最も多く31,004人で、次いで「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっており、「商都町田」と称されるように、商業の存在感が大きい産業構造となっています。

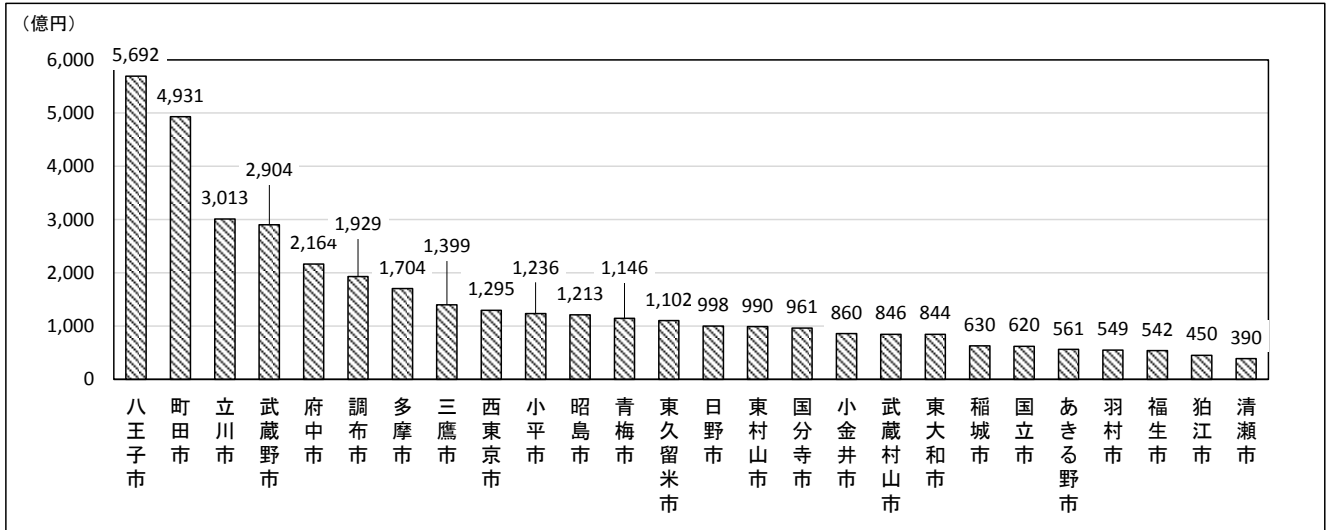
町田市における産業大分類別の事業所数及び従業者数の構成  
出典:総務省「平成26年経済センサス基礎調査(7月1日現在)」



- 「平成 28 年経済センサスー活動調査」によると、小売業の年間商品販売額は、八王子市の 5,692 億円に次いで 2 番目に大きくなっています。

### 小売業年間商品販売額の都市間比較

出典：総務省・経済産業省「平成 28 年経済センサスー活動調査」



### (7) 大学も学生もたくさん

- 市内や隣接地域には多くの大学、短期大学、専門学校などがあります。そのため、学生の年代である、15～19 歳の転入超過数が多いという特性があります。
- 教育・文化のまちを形成するため、町田市を生活圏とする大学等と協力して町田市学長懇談会を開催しており、参加校の学生総数（町田圏域）は約 5 万人にのびります。

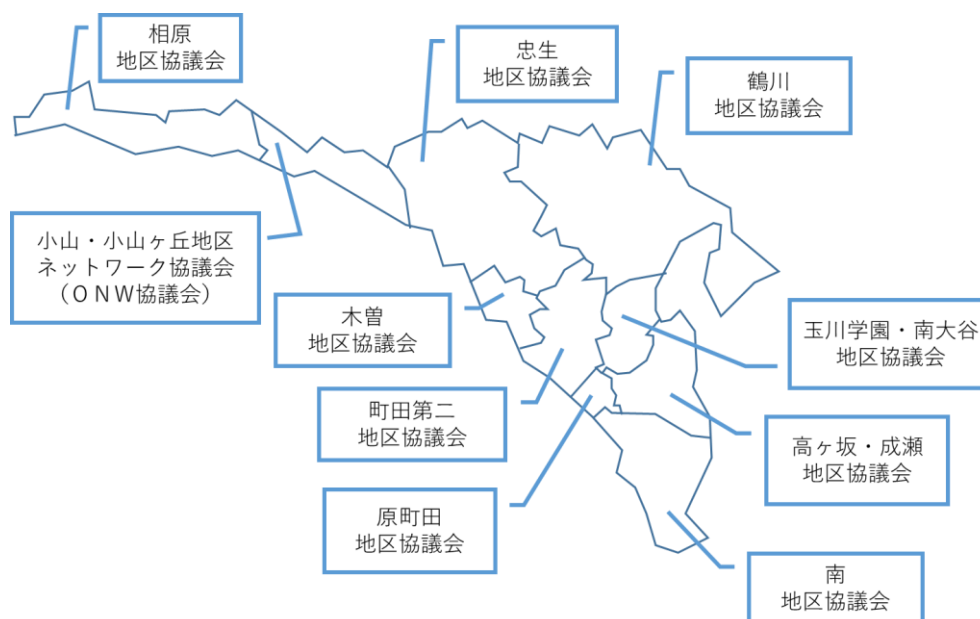
#### 町田市学長懇談会参加校



## (8) 地域活動が盛んです

- 町田市町内会自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の3団体をはじめとした様々な団体が集まり、知恵を出し合い、協力しながら地区の課題解決や魅力向上に取り組むネットワーク組織「地区協議会」が市内全10地区で設立され、地区の特性に合わせた様々な事業に取り組んでいます。

各地区協議会の区域



- 市民・地域団体・事業者などが、自らの「やってみたい夢」を賛同者の協力を得ながら、主体的に実現させていく取組「まちだ〇ごと大作戦 18-20」に、100万人以上の参加があるなど、市民活動・地域活動に積極的な土壌があります。



### 【取組事例①】

#### 「町田木曽水かけ祭り」

地域の道路を一部封鎖して、消防団による放水訓練や参加者が水鉄砲を使って水をかけ合う非日常的な取組。町内会・自治会の会員数の増加や消防団員不足の解消、地域のつながりや子どもの思い出づくりにつなげたいという主催者の想いで実施。



### 【取組事例②】

#### 「ようこそ！鶴川 OMOTENASHI 大作戦」

鶴川にある3つの古民家運営者と鶴川地区町内会・自治会連合会が一緒になって、新たな鶴川の魅力づくりを行いたいという想いで、香山園や各古民家で日本文化が体験できる取組を実施。

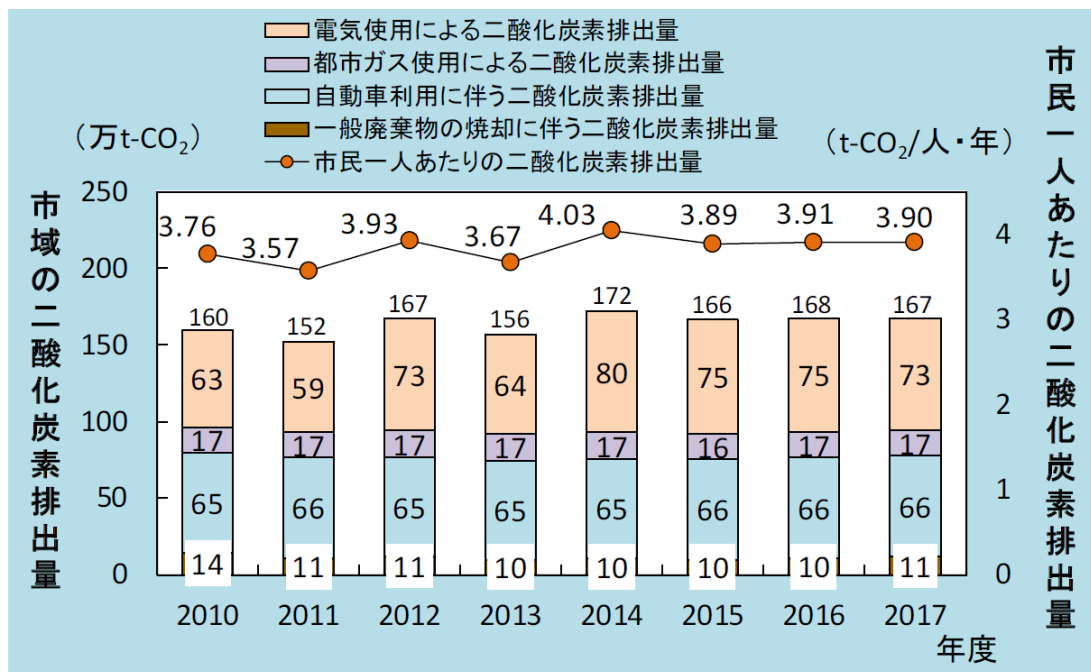


## (9) 町田で地球温暖化はすすんでいるのか

○町田市の2010年度からの二酸化炭素排出量は、年度ごとに変動があります。その内訳を見ると、約44%を電気使用による排出量が占めています。電気使用量から二酸化炭素排出量を計算する際に使用する二酸化炭素排出係数<sup>2</sup>の変動の影響を受け、増減が大きくなっています。約40%を占める自動車使用による排出量は、ほぼ横ばい傾向にあります。

町田市域の二酸化炭素排出量の変化

出典：町田市「町田市環境白書 2019」



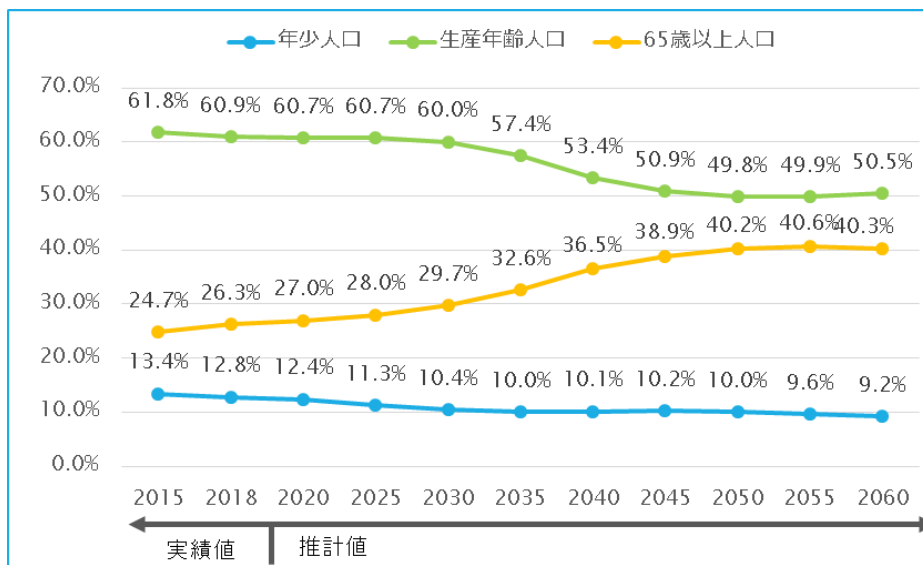
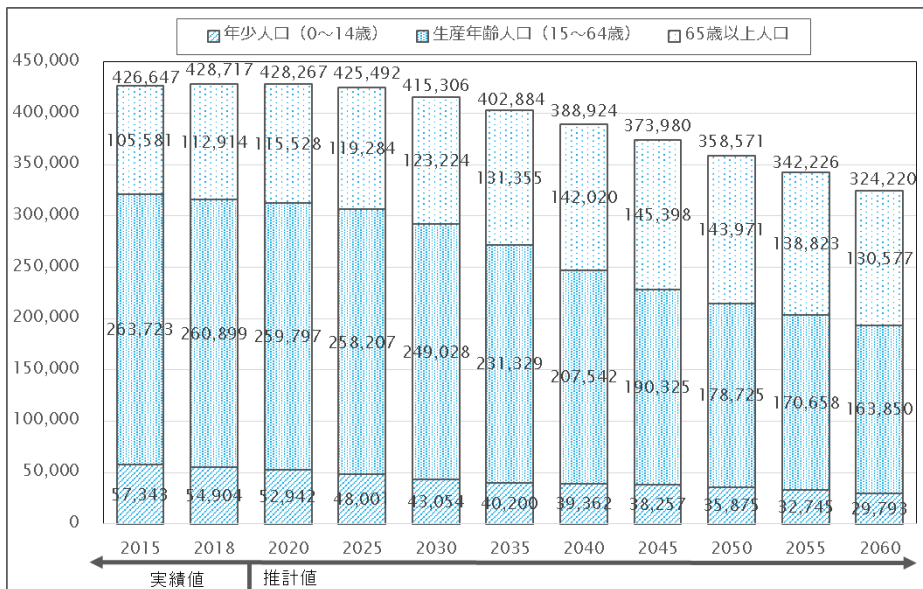
<sup>2</sup> エネルギー使用量あたりの二酸化炭素排出量を指し、電気の場合は電力会社が一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを示すもの。

## 2 社会経済状況の変化

### (1) 人口減少と人口構成の変化

- 町田市が行った将来人口推計の結果に基づき、2020年以降の推移をみると、近い将来、総人口は長期にわたる減少局面に移行します。その減少幅は年を経るごとに拡大し、2040年には40万人台を割り込むおそれがあります。
- 年齢階層別にみると、0～14歳の年少人口は2025年に5万人台を割り込んだ後、2040年には4万人を切るところまで減少します。同様に、15～64歳の生産年齢人口は2030年頃から減少傾向がより一層進行すると予測されています。一方、65歳以上の老年人口は、一貫して増え続け、2040～2050年には14万人を超える水準に達すると予測されており、特に75歳以上人口は2055年まで増加し続けることが見込まれています。

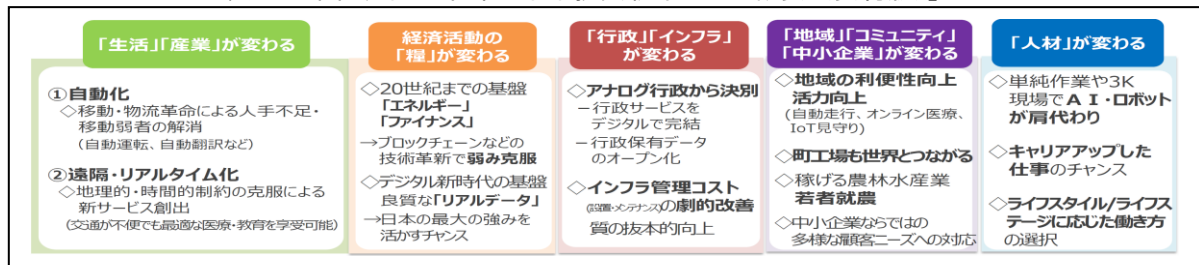
町田市における将来人口の推計結果



## (2) テクノロジーの発展

- 近年、実社会の中であらゆる事業・情報がデータ化され、ネットワークでつながる「IoT」、コンピュータが自ら学習し、人間を超える高度な判断を行う「AI」、多様かつ複雑な作業を自動化する「ロボット」などに代表される、「第4次産業革命」と称される技術革新が世界規模で従来にないスピードとインパクトで進展しています。

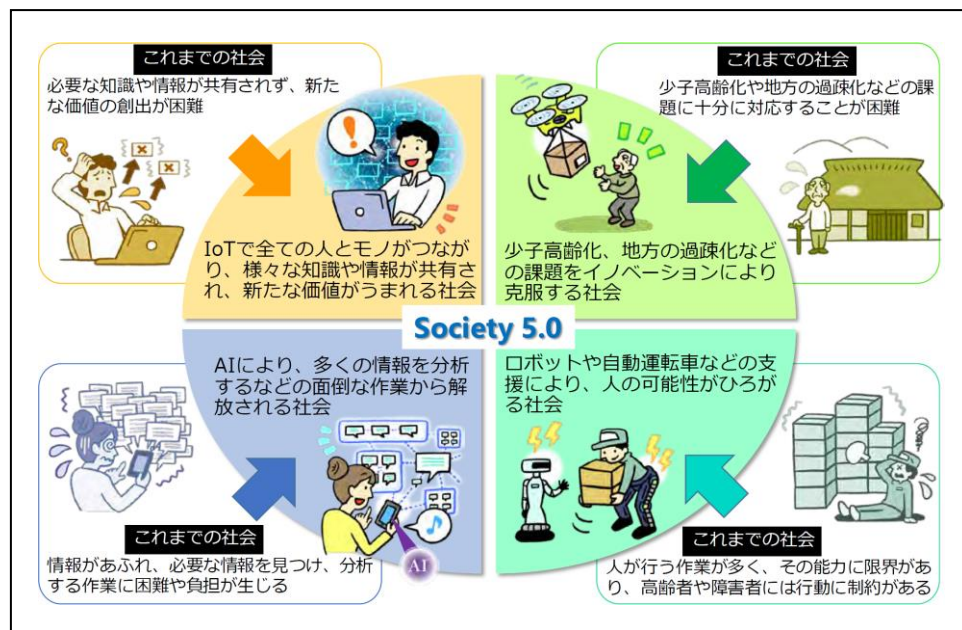
第4次産業革命技術がもたらす変化／新たな展開  
出典：日本経済再生本部「未来投資戦略2018 概要（要約版）」



- 今後、AI やロボット等によって、様々な分野で自動化が進むとともに、画質や音質が飛躍的に進歩した IoT 技術により国民生活の利便性や生活の質が向上することが大いに期待されており、国は、「第5期科学技術基本計画<sup>3</sup>（2016年1月閣議決定）」の中で、必要なモノ・サービスを、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らせる「Society5.0（超スマート社会）」の実現を掲げています。

### Society5.0 で実現する社会

出典：内閣府「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」



<sup>3</sup> 科学技術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画であり、今後10年程度を見通した5年間の科学技術政策を具体化するものとして、政府が策定。

### (3) 都市構造の変化

#### <小田急多摩線、多摩都市モノレールの延伸>

○2016年4月、国土交通省交通政策審議会の「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申の中で、現在、新百合ヶ丘から唐木田まで運行中の小田急多摩線の延伸（唐木田～相模原～上溝）と、上北台から多摩センターまで運行中の多摩都市モノレールの延伸（多摩センター～町田）の延伸が盛り込まれています。両路線の延伸の意義として、小田急多摩線の延伸では、町田市及び相模原市と都心部とのアクセス利便性の向上、多摩都市モノレールの延伸では、多摩地域の主要地区間のアクセス利便性の向上がうたわれています。

#### 「小田急多摩線」「多摩都市モノレール」の延伸の位置

出典：町田市「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想」



#### <リニア中央新幹線の開業>

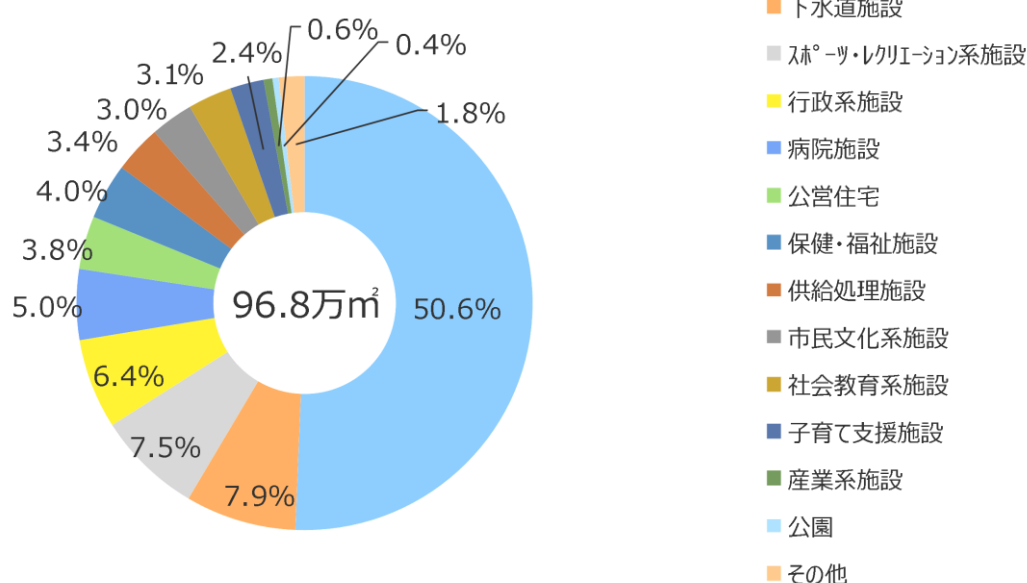
○リニア中央新幹線は、現在 2027 年に予定されている東京・名古屋間の開業に向け、営業・建設主体である東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）によって整備が進められており、JR 東海が 2013 年 9 月に公表した環境影響評価準備書の中では、中間駅の 1 つが近隣の相模原市の橋本駅付近に設置されることが示され、2014 年 10 月には全国新幹線整備法に基づく工事実施計画が認可されています。

#### (4) 公共施設の老朽化

○町田市では、1960年代後半～1980年代前半にかけて学校教育系施設を中心に多くの公共施設を整備してきました。施設分類別の延床面積では、総延床面積96.8万㎡のうち、学校教育系施設が50.6%と過半を占めています。また、築年数別の延床面積では、築30年以上の施設の延床面積が54.1%と半数を超え、市全体として老朽化が進んでいる状況となっています。

町田市における公共施設の施設分類別延床面積の構成比（2016年度末）

出典：町田市「公共施設再編計画」



町田市における公共施設の建築年別延床面積割合（2016年度末）

出典：町田市「公共施設再編計画」

